

卒業論文

日本の主要全国紙における「難民」・「在日外国人」の描かれ方

法学部政治学科 4年 E組

塩原良和研究会 8期

31455835

佐藤 志菜乃

【目次】

1. はじめに
 - 1-1. 問題意識
 - 1-2. 研究目的・方法
 - 1-3. 我が国の難民受け入れの歴史と在日外国人
2. メディアの報道
 - 2-1. 私達とメディア
 - 2-2. メディアの手法
 - 2-3. マスメディアの手法に関する批判・問題点
3. 主要全国紙の難民報道
 - 3-1. ベトナム難民報道
 - 3-1-1. ベトナム難民
 - 3-1-2. ベトナム難民に関する記事分類
 - 3-1-3. ベトナム難民に関する記事分類に対する考察
 - 3-2. シリア難民報道
 - 3-2-1. シリア難民
 - 3-2-2. シリア難民に関する記事分類
 - 3-2-3. シリア難民に関する記事分類に対する考察
4. 主要全国紙の在日外国人報道
 - 4-1. 「ジャパゆきさん」報道
 - 4-1-1. 「ジャパゆきさん」とは
 - 4-1-2. 「ジャパゆきさん」に関する記事分類
 - 4-1-3. 「ジャパゆきさん」に関する記事分類に対する考察
 - 4-2. 在日コリアン報道
 - 4-2-1. 在日コリアン
 - 4-2-2. 在日コリアンに関する記事分類
 - 4-2-3. 在日コリアンに関する記事分類に対する考察

5. おわりに

5-1. メディアと難民・在日外国人問題の関係性

5-2. メディアは難民・在日外国人をいかに表象すべきか

5-3. 本論文の限界・今後の課題

1. はじめに

1-1. 問題意識

私が大学生になって「難民問題」に関心を抱いたのは二つのニュースと一枚の写真報道がきっかけであった。一つ目は今日、第二次世界大戦後最大の「難民危機」と称される事態に陥っているというニュースである¹。沢山の難民が欧州諸国に押し寄せ、ドイツなどは難民受け入れの限界に達し、疲弊しきっているという。一方、我が国日本は5000人の申請者のうちたった11人しか受け入れをしていないと海外から批判を受けていた。二つ目は、パリの同時多発テロのニュースである²。パリの同時多発テロはイスラム国による組織的な犯行であったが、実行犯は難民に紛れ込み、フランスに侵入した可能性があった。世界の難民問題から目を背け、自国が良ければそれでいい、というのはあまりにも冷淡だと思うが、難民を受け入れれば受け入れるほど、抱える問題も増えてくる。沢山難民を受け入れれば良いという問題でもなく、難民の受け入れが少ないからといって一方的な批判を受ける必要があるのだろうか。難民問題の奥深さに興味を抱いた。三つ目は、目にしたことのある人も多いと思うが、「波打ち際に横たわる難民の男の子」の写真である³。テレビやネットニュースで拡散されたこの写真は世界でも波紋を呼び、難民問題の深刻さが浮き彫りになった。難民について何の知識もない私に難民問題への興味を与えたのは「難民危機」と「パリの同時多発テロ」のテレビニュースと一枚の写真報道であった。メディアの報道が社会や人々に与える影響は非常に大きいと思う。日本の難民受け入れ問題を考える上では、政府の方針だけではなく、日本社会が難民をどう捉えているのかが重要になる。そして、人々に難民についての知識やイメージを与えているマスメディアの報道に興味を持った。また、難民問題を考える際には、在日外国人の扱われ方にも注目する必要がある。難民認定を受け、永住許可を受けた難民は日本社会で生きていくことになる。既に日本に定住している在日外国人の問題は難民問題と密接に関わっているだろう。

また、大学三年次に塩原良和研究会に入り、授業や定時制高校でのフィールドワークを通じて、外国にルーツを持つ子供や在日外国人について考える機会が多くあった。実際に関わる中で自分の今まで抱いていた固定概念やイメージが崩れることもあった。そこで、改めてメディアは「他者」についてどの様に報じて、どのようなイメージを私たちに与えているのか興味が深まった。メディアは難民や在日外国人をどのように報じ、我々

¹ 東洋経済, 2015, 「戦後最大の難民危機、問題はどこにあるのか」, (2017年1月24日取得, <http://toyokeizai.net/articles/-/98629>)

² 産経ニュース, 2015, 「難民に紛れ込み入国した『実行犯』は2人 対策迫られる欧州」, (2017年1月24日取得, <http://www.sankei.com/world/news/151121/wor1511210017-n1.html>)

³ THE WALL STREET JOURNAL, 2015, 「溺死したシリア難民の男児の写真に世界が衝撃」, (2017年1月24日, <http://jp.wsj.com/articles/SB12096842380967064583604581211692551093796>)

にどのような影響を与えて来たのだろうか。本論文で考えていきたい。

1-2. 研究目的・方法

私が本論文で明らかにしたいことは、前項でも述べたように「メディアが難民・在日外国人をどのように描いているのか」である。しかし、メディアといってもテレビや雑誌、ラジオなど幅が広く、研究するには限界があるためこの論文では「新聞」に絞って考えていく。その中でも日本の二大新聞であり、思想的に対照的と言われる朝日新聞と読売新聞に焦点を当てる。

そして、「難民」と一言でいっても、世界には現在多くの難民がおり、その言葉のさす幅は大きい。そこで、この論文では「ベトナム難民」と「シリア難民」に目を向ける。ベトナム難民と日本は歴史的にも深い関わりがある。わが国へボードピープルが到来して以来、ベトナムを初めとするインドシナ難民は日本において外国人政策を考える上で原点となっている（山田 2007：87）。そこで、私はベトナム難民の報道のされ方がその後の難民報道の型となっているのではないかという仮説を立てた。ベトナム難民報道が盛んであったのが 1988 年～1990 年と時代を遡るので、私は近年の難民報道にも注目したいと考えた。そこで、近年大きな国際問題となっている「シリア難民」を対象にした。次に「在日外国人」に関しても「ジャパゆきさん」と「在日コリアン」を対象を絞ることにした。「ジャパゆきさん」とは差別用語として今は使われなくなったが、日本へ出稼ぎに来る外国人女性の呼称のことである。1970 年代後半から急増し、社会問題ともなった「ジャパゆきさん」の描かれ方を見ることは、新聞における在日外国人の描かれ方を考えるヒントになると考えたからである。それに対して、より近年の在日外国人報道に注目し「ジャパゆきさん」報道と比較をするため「在日コリアン」も対象にしたい。法務省の 2017 年 12 月末の【在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表】によると、日本に在留する外国人は圧倒的にアジア地域出身の者が多く、中でも中国・韓国出身が圧倒的に多い。

【表 1】

国籍・地域	総数
総数	2,913,314
アジア	2,369,729
中国	843,740
韓国	527,077
フィリピン	271,969
ベトナム	203,653
台湾	106,979
朝鮮	32,461
シリア	574
ヨーロッパ	113,233
アフリカ	17,197
北米	119,396
南米	246,978
オセアニア	46,155
無国籍	626

（出典）法務省, 2017, 国籍・地域別 在留資格（在留目的）別 総在留外国人

(2017年7月30日取得 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001177523>)

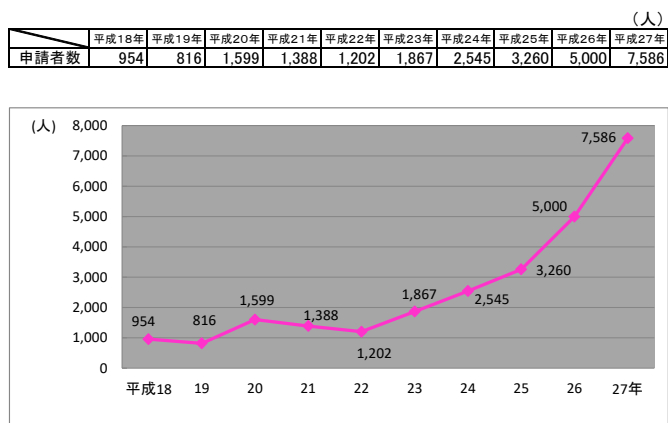
黄色は数の多いもの/緑は数の参考

このように「難民」「在日外国人」の二つの軸を持って、日本の主要全国紙の描き方を見ていきたい。分析は、朝日新聞の「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞の「ヨミダス歴史館」という二つのデータベースを利用して新聞検索をする方法をとる。（「聞蔵IIビジュアル」の収録範囲は1879-現在、「ヨミダス歴史館」は1874-現在）。そして、新聞検索の結果から考察できることを踏まえ、マスメディアはどのように「難民」「在日外国人」を表象すべきか考えたい。

1-3.我が国の難民受け入れの歴史と在日外国人

そもそも、難民とは何だろうか？1951年の「難民の地位に関する条約」によると、難民は「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国に在ると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されている。そして今日では政治的な迫害のほか、武力紛争や人権侵害などを逃れるために国境を越えて他国に庇護を求めた人々⁴を指すようになっている。「難民」というとシリアやアフリカなどの遠い国での問題、日本にはあまり関係がないと思われがちだが日本にも毎年難民が認定を求めてやってきていてその申請者数は増えている。（図1参照）しかし、その認定数は他の国々と比べると明らかに少ないのである。（図2・3参照）

【図1 難民認定申請者数の推移】

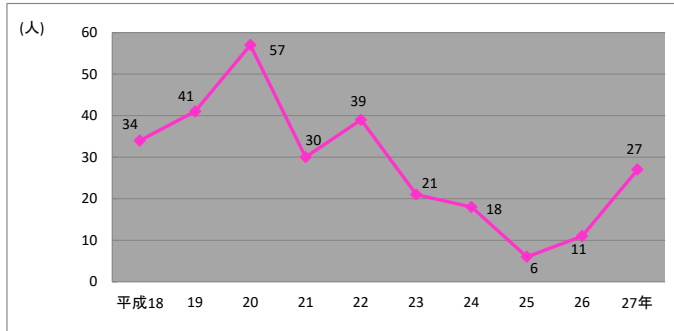


(出典) 法務省, 2016, 「添付資料 別表(1)難民認定申請者数の推移 (2)難民認定者数の推移」 (2017年1月24日取得, http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00111.html)

【図2 難民認定者数の推移】

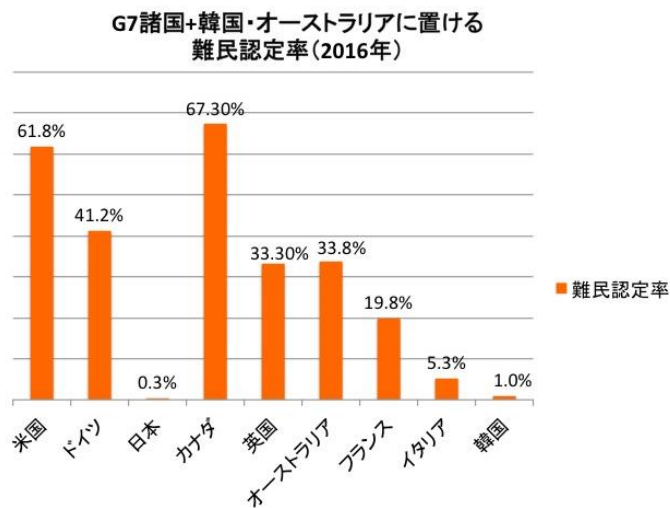
⁴ UNHCR 本部, 2015, (2017年1月24日取得, <http://www.unhcr.or.jp/html/ref-unhcr/refugee/>)

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
難民認定者数	34	41	57	30	39	21	18	6	11	27



(出典) 法務省, 2016, 「添付資料 別表(1)難民認定申請者数の推移 (2)難民認定者数の推移」 (2017年1月24日取得, http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00111.html)

【図3】



(出典) 全国難民弁護団連絡会議, 2016, 統計「G7諸国+韓国・オーストラリアにおける難民認定数等の比較」 (2017年12月29日取得, <http://www.jlnr.jp/stat/>)

以下、日本の難民受け入れの歴史を年表にまとめた。

【表2】

1960年	外務省が refugee の訳語として「難民」を採択。日本でようやく「難民」という言葉が定着する。
1975年5月	ベトナム戦争の影響により南ベトナムを脱する「ボートピープル」の一団が日本に初めて到着。日本が初めて難民受け入れ問題を考える。
1978年	初めてインドシナ難民3人の定住を認める。

1979年	日本が初めてインドシナ難民の定住受け入れ枠を500人に設定。
1981年	ようやく難民条約加入手続きを取る。
1982年	入管法が施行され、条約に基づく難民認定がスタートする。
1985年	インドシナ難民定住受け入れ枠が1万になる。
1989～1997年	難民認定が毎年1桁の超氷河時代。
1991～2000年	緒方貞子、国連難民高等弁務官在任。
2003年10月	米国の影響で日本でも「北朝鮮人權法」成立を目指す動きが活発化。
2005年1月	クルド人難民申請者二人がトルコに強制送還。
2005年5月	改正入管法施行。異議申し立て手続きに「難民審査参与員」制度が導入された。難民不認定に対する異議申し立ての審査に第三者の「難民審査参与員」が関わる制度がスタート。
2006年6月	「北朝鮮人權法」成立。 内容は、脱北者の保護と受け入れ、脱北支援など。
2009年	外務省は難民申請者に対して「保護費」を支給していたが、申請者100人の保護費が2009年に打ち切られる。保護費を必要とする申請者が増加していく中で、保護費予算が不足するおそれがあるとして、外務省は支給対象者に優先順位を設けたためである ⁵ 。支給要件が厳格化したことで「ホームレス難民」になる例も。
2010年	ミャンマー難民を対象に、一時的に難民キャンプに保護した後、新たに受け入れに合意した第三国へ移動させる「第三国定住」を開始。アジアでは初。
	難民申請中も就労できるように、出入国管理及び難民認定法改正。
2012～2014年	就労目的の難民申請や、申請中の犯罪（保護費不正受給、薬物密売）が報道され、批判が高まる。
2014年	世界で過去最多となる5950万人の難民が発生。世界の人口の122人に1人が難民。
2015年	法務省が難民審査をさらに厳格化する「出入国管理基本計画」を発表。保護の必要性に乏しければ就労も認めず、送還も検討。
	シリア周辺国へ逃れたシリア難民が400万人を超え、欧州で難民受け入れ問題が深刻化。
	パリで同時多発テロが発生。実行犯に難民を装って入国した人物がいたことで、世界で難民への警戒が高まる。
	難民受け入れに反対するデモ、そのデモへの抗議活動が世界各地で行われる。

(出典)

⁵ 難民支援協会, 「第5回 難民「保護費切り」と緊急キャンペーン: 市民が動かす社会」 (2017年1月24日, <https://www.refugee.or.jp/jar/10yrs/5.shtml>)

1960年～2010年（山田：19-22）

2010年～2015年（朝日新聞：2016年01月11日）

次に在日外国人について見ていく。法務省の「平成28年末現在における在留外国人数について（確定値）」によると、平成28年（2016年）末現在における中長期在留者数は204万3872人、特別永住者数は33万8950人で、これらを合わせた在留外国人数は238万2822人となり、前年末に比べ、15万633人（6.7%）増加し、過去最高となった。男女別では、女性が124万7741人（構成比52.4%）、男性が113万5081人（構成比47.6%）となり、それぞれ増加した⁶。また、下の図を見て分かるように在留外国人の数は年々増加しているのだ。

【図4】



（出典）法務省, 2017, 「国籍・地域別 在留資格（在留目的）別 在留外国人」（2017年12月22日取得, http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html）

このように私達と古くから関わりを持ち、これからも深く関わっていく「難民」「在日外国人」であるが、メディアは彼らをどのように表象してきたのだろうか。次章でメディアの報道の仕方について主に先行文献を参考にしながら見ていきたい。

2. メディアの報道

2-1. 私達とメディア

『他者という技法 コミュニケーションの社会学』の中で奥村隆は、「あなたがあるときある場所で、見知

⁶ 法務省, 2017, 「平成28年末現在における在留外国人数について（確定値）」

（2017.12.31取得, http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00065.html）

らぬ、自分とはまったく異質な『他者』に出会ったと想像してほしい。そのときあなたはどうするだろうか。たとえば、その他者が『外国人』と呼ばれる人なら、あなたはどうか対応するだろうか（奥村 2003:90）」と問いかけている。我々は「異質性」を前に、どのような対応をするのだろうか。彼らに対するイメージをつかめない状況では不安を感じ、「コワイ」という印象を受けてしまう。その「コワさ」のイメージを乗り越えるためには、彼らとの直接の出会いや交流が必要であるが、それが困難であることも多い。その場合、私達は雑誌やインターネットなどのメディアから、他者への知識やイメージを得ている（奥村 2003:90）。自らメディアを通じて「他者」について調べることもあれば、テレビ番組や新聞を見ているうちに無意識にイメージを得ている場合もあるだろう。このように「他者」と接する際に我々はメディアから大きな影響を受けていると考えられる。

また、マスメディアは人々に共感を喚起させる効果がある。その効果はナショナリズムとも大きく関わってくる。合理的な計算や理性ではなく、マスメディアによって喚起された「共感」「同情」「慈悲」といった感情が国民的連帯の構築に大きな役割を果たすからである（津田 2016:206）。苦境にある他者の立場に自分自身が置かれたならばどう感じるかを想像させ、リスクの共有や富の再分配に加担する流れを生む（津田 2016:206）。また、国民形成の過程でもマスメディアに登場する富裕層や政治指導者への共感を通じて、国民としての一体感を醸成させることが期待されていた（津田 2016:206）。このように私達と深く関わるマスメディアはどのように物事を報道し、どのような知識やイメージを与えているのだろうか。

2-2. メディアの手法

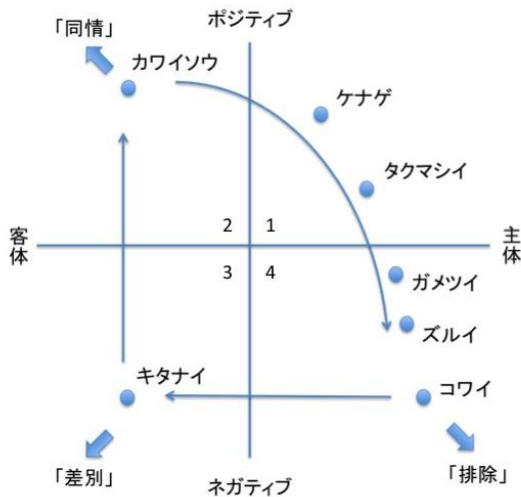
マスメディアは世界に起きている多様な出来事の中から、ニュース・フレーム、メディア・フレームなどと呼ばれる「枠組み」により、「ニュース」という現実を構成している。メディア・フレームは、何を認識、解釈、表象するか、つまりは何を選択、強調、排除するかということに関する一貫したパターンのことである（大石 2016:131）。マスメディアは情報やその意味だけでなく、社会のイメージを構成する際に用いられるフレーム、様々な価値観、さらにはイデオロギーも伝達する。マスメディアやジャーナリストは個々の社会的な出来事に関する報道、解説を通じて人々に影響を及ぼすが、それと同時にメディア・フレームを通じて支配的な価値観やイデオロギーを伝達しているのである（大石 2016:132）。そのメディアが構築したパターンを受け手である私達も、その対象に向かう時の手持ちイメージとして修正や読み替えをしながらも使用するのである（奥村 2003:93）。例えば、貧困に関する報道では米国・英国とデンマーク・スウェーデンで、それぞれのフレームが見られる。前二者は貧困層が「支援に値しない」存在として表象されることが多く、「貧困者＝失業者」または犯罪者に近い存在として描かれることが多い（津田 2016:142）。それに対して、後二者は「支援に値する」存在として表象される（津田 2016:142）。

しかし、マスメディアが伝えたいニュースを報じ、必要な問題を提起しても受け手に関心を持たれなければ意味がない。そこでマスメディアはしばしば「物語化の手法」を用いる。社会問題を抽象的に提示するのではなく、特定の人物の苦難に焦点を当てた物語として提示し、幅広い関心と共感を喚起しようとするものである（津田 2016:207）。

そして物語化の際にも重要になってくるのが、マスメディアが対象を「主体（人）」として描くのか、それ

とも「客体（もの）」として描くのかである。奥村はメディアの作り出す枠組みを、「主体（人）」、「客体（もの）」、「ポジティブなイメージ」、「ネガティブなイメージ」の四つに分け、この四つの要素から四つの象限に区別している。つまり、「主体×ポジティブ」「客体×ポジティブ」「主体×ネガティブ」「客体×ネガティブ」の四つである（奥村 2003 : 111）。図 5 を参照されたい。

【図5 イメージ枠組みと行動】



(出典 奥村2003 : 118)

以下奥村の考えをまとめる。私達は日本社会に「主体」として生きており、その中で異質な他者に出会った時、私という「主体」が他者を「客体」にする場合もあれば、他者という「主体」が私を「客体」にする場合もある（奥村2003 : 116）。対象を「主体」と捉えるか「客体」と捉えるかは大きな違いなのである。どちらが「主体」「客体」になるか分からない、その状態で私達は不安を感じる。この不安の中で主体としての他者と出会う場面、ここで生まれるイメージは「コワイ」である。そして人々はこの「主体×ネガティブ」な「コワイ」イメージを消滅させるため、接触を断つ「排除」という行為にうつる。しかし、この「排除」という行為は悪循環を生む。「排除」するため、他者のことがさらに分からない、そしてさらに「コワイ」と感じる。この状態は図だと第四象限（右下）になる。「排除」につながってしまいかねない対象へのイメージは「コワイ」だけではなく、「ガメツイ」「ズルい」も含まれる。そして、次に同じ「ネガティブ」なイメージだが対象を「客体」として定義したイメージである。これが「きたない」というイメージであり、第三象限（左下）にあたる。つまり、「コワイ」と「排除」の悪循環から「きたない」と「差別」の悪循環につながるのだ。そして、この二つが、異質な他者に出会った時にすぐとられる行動である（奥村2003 : 110）。そして、次に「客体×ポジティブ」の第二象限（左上）を見てみる。この第二象限は「排除」や「差別」とは違い、「同情」「援助」という対応が生まれる。彼らを苦しめるものを「悪者」とし彼らを「被害者」として位置づける。しかし、ここで問題なのが、彼らを「主体」としてではなく「客体」として扱っていることである。彼らは「主体」に苦しめられ、「主体」に苦しめられる「客体」でしかない（奥村2003 : 112）。「同情」「援助」とい

うのは「差別」「排除」に比べたら確かに良いものであるが、対象を「客体」視し、あくまでも自分達が上であるという立場になり兼ねない。そして、何より対象を傷つける可能性があるのだ。そして、その「かわいそう」な「救済の対象者」が、他の側面をもつ存在だと分かった時、「主体」として、私達の予想を越えた力を持つ存在、私達を「客体」にするだけの力を持つ存在だと分かった時私達は裏切られたと感じるだろう（奥村2003：114）。それでも、自分達が「主体」であるために「かわいそう」というイメージを保持させ続けようとする。それでも対象が「かわいそう」イメージに収まらない「ズルさ」を待っていると分かった時、私達は再び「コワイ」というイメージに戻るのである。最後に、「主体×ポジティブ」の第一象限（右上）はどうであろうか。この第一象限に当てはまるのが、例えば「ケナゲ」「たくましい」というイメージである。他者が私達と同等の「主体」としての力を持っていたとしても、それは私達を「客体」に抑えつける力ではなく、協力してくれる他者だと捉えるものである（奥村2003：119）。この第一象限に当てはまるような「主体」同士の「ポジティブな」関係になることが共に生きていくための、一つ可能な方法だと考えられる（奥村2003：120）。奥村のこの考え方をもとに「ベトナム難民」「シリア難民」「ジャパゆきさん」「在日コリアン」がどのように描かれているのか第三章と第四章で考えていく。

2-3. マスメディアの手法に関する批判・問題点

マスメディアの駆使する手法には様々な批判がある。まず、マスメディアは受け手に「共感」を喚起するために、感情面での「操作」を試みて良いのかという問題である。「お涙頂戴」「感動ポルノ」といった言葉に示されるように、マスメディアが受け手の感情を刺激し、特定の方向へと誘導しようとするに対しては強い批判がある（津田2016:210）。この観点からすれば、マスメディアは感情を排した冷静な報道に徹すべきだということになる（津田2016:210）。しかし、統計データだけでは受け手に大きな影響を与えることは出来ないという調査結果や統計データを駆使したアピールは個人の苦境にフォーカスした物語的報道よりも援助行動を引き出しづらいという調査結果が存在する（津田2016:217）。「群衆を見てもわたしたちは決して助けようとしませんが、それが一人の人間であれば、わたしは助けようとする」という心理が存在するのである（津田2016:218）。そうであれば、物語化を通じて社会的弱者への共感を喚起しようとするマスメディアの手法は一概には否定できない。しかし、物語化による落とし穴が存在する。社会的弱者の報道に関して、マスメディアは受け手の共感を喚起しやすいように、社会的弱者が「支援に値する」存在であることを納得しやすい部分に光を当てる（津田2016:222）。物語化を通じて社会的弱者への共感が喚起されたとしても、物語化の過程で「無力で善良な彼ら」と「良心的なわれわれ」という対比が暗黙のうちに想定されているのである（津田2016:223）。このように社会的弱者を客体的存在として表象することは、共感を寄せる側の都合に合わせて生み出されたものでしかない（津田2016:223）。「無力な彼ら」という客体的表象は、社会的弱者の主体性を損ない、ひいては尊厳を傷つけてしまうという問題がある（津田2016:225）。

例えば、1980年代の英国では急増するホームレスに対してマスメディアによる激しいバッシングが展開された（津田2016:225）。怠惰で無責任で狡猾な「ろくでなし」というステレオタイプが流通する中、それに対抗するメディアもホームレスの「無力さや善良さ」を強調するステレオタイプに依拠していたのであった（津田

2016:225)。後者のように社会的弱者の擁護を意図した報道であっても、彼らの主体性や尊厳を著しく損なってしまう可能性があるのだ（津田2016:225）。

一方、「善良で無力な彼ら」という客体的表象をすることで、そこに当てはまらない彼らに対するわれわれの不信感が生まれてしまうのである。例えば、実際には働くことのでき、大きな支援は必要としていないのにも関わらず、われわれの税金を巧妙に吸い上げているというイメージが生まれる（津田2016:224）。このように「裏切られた」という感覚が起き、社会的弱者への共感を喚起するための物語が意図せずして彼らのバッシングを招来してしまいかねない（津田2016:225）。

また、遠隔地での出来事に関する報道は一般的に関心が少ないため、マスメディアはより受け手の注目を集める必要がある。この時に取られる手法が、「同じ人間である」ことを強く意識させる物語化である（津田2016:127）。つまり、読者と同じ人間であるにも関わらず、想像を絶するような劣悪な環境に置かれている人々が遠隔地にいることが強調され、それによって手を差し伸べる必要性が示されるのである（津田2016:127）。しかし、「人間」という表象はそれぞれの人の有する固有性・特殊性を剥ぎ取ってしまい、それは歴史的文脈を持たない「よくある出来事」と見なされるようになる（津田2016:127）。どこの国のどの戦争であれ「同じような理由」で「同じように」苦しんでいると見られてしまうのである（津田2016:127）。

他方で、歴史的文脈を強調した報道は、苦しんでいる人々とのあいだに存在する差異を過剰に顕在化させかねない（津田2016:127）。「彼ら」の抱えている事情が「われわれ」とあまりに異なるゆえに連帯意識を抱きづらいためである（津田2016:127）。いかに悲惨な出来事であれ異世界の事象として認識され、無関心を助長したり、差別感情を増幅させる可能性すらあるのだ（津田2016:127）。

最後にあげるのが「マスメディアは差異を強調すべきか、それとも不可視化すべきか」という問題である。ラーセンによれば、貧困に関する報道が、たとえ貧困層を肯定的に表象するものであっても、格差の存在を大きく認識させてしまうのであれば人々の間にある信頼を切り崩す可能性を有していることを示している（津田2016:143）。例えば、貧困層におけるエスニックマイノリティの割合が高くなるほど、富裕層が彼らとの差異を感じるようになり、結果として福祉制度への支持を低下させるなどが挙げられる（津田2016:144）。これは「差異のジレンマ」にもまつわる問題である。特定の人々を経済状況やエスニシティなどの差異に基づいてカテゴライズすることは、そこに含まれる人々の持つ多様性を一つのカテゴリーによって均質化してしまうことにつながるからである。しかし、だからと言って差異を不可視化してしまうことは存在する問題自体を無視することになってしまう。つまり、差異に注目することも、それを無視することも問題を引き起こしてしまうのである。

以上この章で見てきたメディアの手法とその問題点を踏まえ、次章から「難民」「在日外国人」の描かれ方を見て行きたい。

3. 主要全国紙の難民報道

1-3 で難民受け入れの歴史を見たが、難民の受け入れに影響を与えているのは政府の方針だけではない。難民を日本社会がどのように受け入れたか、あるいは、どのようなまなざしで見ていたかということが、日本社会における彼らの定住生活に大きく影響を与える（山田 2007 : 109）。この章では、「インドシナ難民」、特に

「ベトナム難民」が新聞においてどのように描かれているのか見ていくことにする。1-3の年表からも分かるように、日本とインドシナ難民の関わりは深い。インドシナ難民とは、ベトナム、ラオス、カンボジア（インドシナ三国）から流出した難民のことであり、わが国へボードピープルが到来して以来、難民政策は日本の外国人受け入れの諸相を映す鏡であり、ベトナムを初めとするインドシナ難民は日本において外国人政策を考える上で原点である（山田 2007: 87）。そこで、私はベトナム難民の報道の仕方が型となり、そこから難民報道のフレームが形成されていったのではないかという仮説を立てた。ベトナム難民が急増したのが 1989 年～1990 年であるのに対して、より近年の難民報道を分析するため、近年急増し国際的な問題となっている「シリア難民」についても分析する。

3-1.ベトナム難民報道

3-1-1.ベトナム難民

「ベトナム難民」が日本にたどり着いたのは 1975 年 5 月のことであった。その後、日本政府は、上陸許可者が急増したことや国際世論により、1978 年にこれらの滞在者（ベトナム難民のみ）の定住許可を閣議了解し、1979 年にはインドシナ三国から留学生や資格で来日し帰国できなくなったもの、およびアジア諸国の難民キャンプ等に一時滞在しているインドシナ難民についても、日本への定住を許可することが閣議了解された（山田 2007:108）。同年に、「定住枠五百人」が設定され漸次「定住枠」が引き上げられ、結果的に一万一千人あまりの「インドシナ」難民に定住枠が与えられた（山田 2007:109）。しかし、当時の日本政府の基本的姿勢は「入ってきてよいが、できるだけ定着してほしくない」という姿勢であった（山田 2007:109）。

日本に入国し、定住許可を受けた「インドシナ難民」の多くは、「大和定住促進センター」、「姫路定住センター」などで三ヶ月間さまざまな訓練を受けた。そして、生活指導、日本語学習、社会見学など定住適応訓練を受けたのち、職業斡旋を受け日本各地に定住していった（山田 2007:112）。しかし、難民当事者はセンターを退所後、分散化されても一部の地域に「再移住」する傾向があり、その結果、各地に集住地区が表れた（山田 2007:112）。しかし、「集住化」しコミュニティが形成されているように見える場合でも、ベトナム系住民の場合、そのコミュニティの内部は必ずしも一枚岩ではない。政治的志向性や宗教、出身地域、祖国ベトナムでの職業や生活によって考え方や生活の仕方も違う（山田 2007:113）。そして、日本に長く定住したベトナム人の老後の生活問題や子どもの課題など、定住後の課題はまだ存在する。

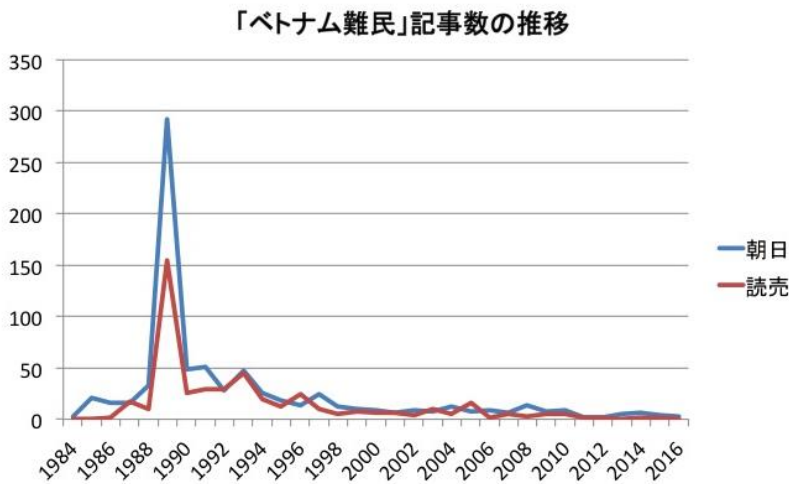
次にあるアンケートを見て欲しい。「日本の難民受け入れ-過去・現在・未来」の著者の一人でもあり、ベトナム難民出身のヴー・ティ・キム・スアンが担当し、163 人のベトナム難民から回答が得られた「ベトナム難民の定住に関する調査」である（山田 2007: 139-152）。その中の、仕事を変えた主な理由は何であったかという質問に対して、「差別された（二人）」、「外国人であること、難民であることで差別を受けた。自尊心を傷つけられた」、「いじめをうけた（二人）」、「日本語が出来ないのでいじめられた」などの回答があった（山田 2007: 139-142）。また、日本政府、あるいは日本社会に対してこれだけは述べておきたいということがあったら自由に書いて下さいという欄には、「外国人に対していじめをしないで下さい」、「問題がないときは彼らを難民と呼び、トラブルがあるときには定住者と呼ぶ」、「一部の不良難民と最近来た研修生の不法滞者の犯罪により、まじめに働いているベトナム人まで悪いイメージがついている」などがあつた（山田 2007:145-152）。

アンケート結果からも分かるように、現在でも日本にはベトナム系住民への差別・偏見が存在する。

3-1-2. ベトナム難民に関する記事分類

では、日本国民側はベトナム難民をどのように捉えて来たのか、実際に新聞記事を見ていく。朝日新聞の「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞の「ヨミダス歴史館」というデータベースを利用して新聞を検索した。「聞蔵IIビジュアル」の収録範囲は1879-現在、「ヨミダス歴史館」は1874-現在である。しかし、その中で記事が電子化されていた「聞蔵IIビジュアル」の1985年～、「ヨミダス歴史館」の1986年～の記事を対象とした。そこで「ベトナム難民」というキーワードを検索した結果、朝日新聞は786件、読売新聞は481件ヒットした。(2016年12月31日現在)以下の図が年代別、新聞社別に表した記事数の変化である。1988年～1990年が圧倒的に多いことが分かる。

【図6】



まず朝日新聞、読売新聞双方に共通していた記事内容は以下である。

- ・ 急増するベトナム難民
- ・ 経済難民
- ・ ベトナム難民の中に中国人偽装難民
- ・ ベトナム難民到着後、姿くまます
- ・ ベトナム難民が主役となった映画
- ・ 本国への送還
- ・ 夜間学校や補修教室を求める声

そして、それらの記事においてベトナム難民がどのように描かれているのか、九つに分類することが出来た。ベトナム難民を①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」として描いているもの、②「生きづらさを感じている存在」として描くもの③違法性が強調されているもの（経済難民・偽装難民）、④「迷惑・邪魔者」として描くもの、⑤「ずるい」存在として描くもの、⑥「コワイ」という印象を与えるもの、⑦難民の活躍を伝

えるもの⑧「けなげさ」を感じさせるもの⑨「交流を深める存在」として描くものの九つである。以下、①から順に分類ごとに当てはまる記事の例を紹介していく。

〈①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」として描いているもの〉

ベトナム難民の記事の中にはベトナム難民の壮絶な状況を描き、救済の必要性を伝える記事がある。これらの記事はボートでの脱出の悲惨さや漂着時のベトナム難民の疲れた様子を描くものが多い。

後を絶たぬ難民、救済へ模索続く 現地報告と各国の論調（国連特集）

難民が必要とすることは何だろうか。まず第1に保護だ。彼らは国境を越えたとたんに危険にさらされるからである。しかし保護だけでは十分ではない。なぜなら、現代の難民はわずかの例外を除いて、個々ではなく時には数十万人の大波となって前ぶれなしに押し寄せるのであり、最優先でやらなければならないことは彼らを死から救うことだからだ（朝日1986.02.18）。

米艦、ベトナム難民見殺し？ 漂流中救助せず多数死亡

【ワシントン14日＝アメリカ総局】米海軍は14日までに、同軍の揚陸ドック艦デビューク（アレキサンダー・G・バリアン艦長、16,500トン）が、さる6月9日、木造船で南シナ海を漂流中のベトナム難民に遭遇しながら、十分な救助を怠り、現場海域に置き去ったとの情報に基づき、事実関係の調査を開始した。難民たちは6月27日になってフィリピン沖で52人が救助され、同国に上陸した。しかしベトナム出港以来58人が死亡、この大半は、米艦に乗船を拒否されたあとの犠牲者で、しかも生存者たちは、仲間の人肉を食べて飢えをしのいだ、の報道もある（朝日1988.08.15）。

岩場に100余人の生命 美良島の漂着ベトナム難民、身を寄せ合い

ベトナム難民が漂着した現場に朝日新聞社機が到着したのは午前10時15分ごろ。美良島（びりょうじま）の南側の岩場にベトナム難民らしい約100人が岩の上に立っている。漁船は青い船体でかなり古びている。難民らは、ベトナム服の長いズボンや黒のシャツを身につけている。中には子供もいるようだ。かなり疲れているらしく、飛行機の姿を見ても、手を振る人もなく、ただぼう然と立っただけだった。

岩に上がった難民たちは、岩の上にほとんどが座り込み、脱出時に持ち出したわずかな荷物を大事そうに手に持っている。わきには、水をためていたのか、ポリ容器のようなものも目に入る。毛布のようなものを岩場に敷き、ゴロリと横になっている人、ひざをかかえ、頭を下げてじっとしている人。腕の中に子供を抱きかかえている母親の姿も。生命が助かったあとの虚脱感からなのか。岩場の1カ所に集まった難民たちは、黙りこんでしまっているようだった（朝日1989.05.29）。

ベトナム難民らの命つないだ船、廃船同然で焼却へ 【西部】

107人のベトナム難民を乗せて長崎県五島列島の美良島（びりょうじま）に漂着した小船は、30日も座礁した波打ち際にあった。狭い船倉に散乱する即席ラーメンの袋やタオル類。改めて、こんな小さな木造船で100人以上が約40日も荒海を航海できたものだ、と驚かされる。甲板と船倉に散乱した空の缶詰や瓶、ゴザ、洗面器、懐中電灯、スリッパ……。生活用品類が約40日間の苦難をうかがわせる。漂流途中、韓国の軍用船からもらったという米袋も残っていた（朝日1989.05.31）。

ベトナム難民狙う海賊 金品強奪、殺人、人身売買も

東南アジアのシャム湾からマレー半島沿岸にかけての海域で、ベトナムからのボートピープルをねらう海賊船が横行、血なまぐさい事件がこのところとくに頻発し、関係当局が厳戒態勢に入っている。金品の強奪、殺人、暴行、人身売買……。生存者が伝える海賊たちの手口は極めて残忍で、難民の流れが北方の日本などへ向かい始めた一因ともされている。

「トロール船が二隻、私たち百五十人ほどが乗った難民船に横付けしたと思うと、長い刀を持った男たちが乗り移ってきました。貴金属を全部奪い取った後、私を含め若い女性十三人と七歳の男児一人をトロール船に移し替え難民船を体当たりで沈めてしまいました。……皆、波間に消えていきました。私は何度も暴行を受け、一週間後、海に投げ捨てられました」（朝日1989.08.31）

〈②「生きづらさを感じている存在」として描いているもの〉

ベトナム難民の脱出時の悲惨さだけでなく、日本国内においても入管局から強制退去を命じられたり、在留許可が降りないなど安定した生活を送れないベトナム難民の存在を伝えている。在留資格がないため、就職を断られる、生活保護を受けられない、学校の先生から差別を受けるケースなども存在する。これらの記事はベトナム難民の現状を訴え、日本政府に対して問題提起しているものや日本の受け入れ態勢の悪さを示している。

日本の友達と離れたくない ベトナム難民一家に退去命令 隣人が嘆願運動／東京

「雪江ちゃんが日本で暮らせるように」――入管当局から強制退去を迫られている中国系ベトナム人の難民一家に、地元の東京・池袋で支援の輪が大きく広がっている。戦火のベトナムを脱出、台湾経由で日本に移り住んだこの一家は、五年近くの間すっかり日本の生活に溶け込み、小学二年生の長女、通称雪江ちゃんは日本語しか話せない。お友達がいっぱいいる日本を離れたくない、との少女の訴えに近所の主婦らが、二十七日までに約六千八百人の署名を集めた。近く代表がこの署名を添えた嘆願書を提出、当局に再考を求めるといふ（読売1988.01.27）。

日本にとけ込めないベトナム難民 友だちもできず（金満国への黒船）

「日本にはなかなかとけ込めない」「日本人の友達がいない」。政府はインドシナ難民の定住を促進しているが、すでに定住している難民の間からは、こんな声も聞こえてくる。言葉の障壁に加え、難民に対する無理解も背景にあるとみられ、日本は必ずしも住みやすい国ではなさそうだ。

東京・品川にある難民の一時受け入れ施設、国際救援センターには絶えず、定住難民が遊びにくる。来日してすでに9年になるベトナム人のグエン・バン・クウイさん（25）も休みのたびに、必ずやってくる1人だ。

「ここには友達がいっぱいいるから」と、クウイさんはいう。

貨物船の乗組員だったクウイさんは昭和55年、15人のベトナム人と一緒に難民として日本に来た。長崎、新潟の難民施設や国際救援センターでの日本語研修を終え、58年8月に定住を許された。いまは横浜で、プレス工として働いている。

毎日3時間の残業。給料は16万円で、日本人の平均給与よりかなり少ない。家賃は7万3000円で、食費を除くと何も残らないという。

それよりもつらいことは、日本人の友達が出来ないことだ。職場では仕事の話ばかり。仕事がすめば、付き合いもそれで終わってしまう。クウイさんは「日本人はいつも忙しそう。ぼくにとって、祖国のことや世間話ができるセンターは第2の故郷のようなものだ」とまでいう（読売1989.10.02）。

大阪府茨木市の法務省西日本入国管理センターに収容されていたベトナム難民3人が5日に仮放免されたの
に続き、同様の措置を受ける見通しだった難民の男性（29）ら2人が6日、仮放免された。男性は強制退去
の命令取り消しを求めて高松地裁で争ったが、9月に訴えを取り下げている。男性らは帰宅したが、仮放免の
ままでは就業できず、弁護団は「在留特別許可がなければ、生活が不安定なまま社会に放り出されることにな
る」と指摘している。

インドシナ難民を支援するアジア連帯委員会（東京都）の石崎昭夫事務局長は「国内に約1万1千人いるイン
ドシナ難民の多くは、難民条約による難民認定を受けておらず、長期間日本で暮らしても不安定な立場だ。政
府は彼らを受け入れた以上、より安定した生活を送ることができるよう、柔軟な制度を考える必要がある」と
話している（朝日2004.10.07）。

〈③違法性を強調するもの（経済難民・偽造難民）〉

1989年に入ると、経済難民や偽装難民の記事が明らかに増えている。

ベトナム難民に関する全体の記事数が1989年～1990年にかけて劇的に増えているのもこれらの記事が増えた
からである。

ベトナム難民船に中国人2人 「出稼ぎ」が目的 法務省、送還交渉へ

日本へのベトナム難民（ボートピープル）が今年に入って急増しているが、法務省は28日、5月末に長崎県に到着した107人のグループの中に2人の中国人が含まれていた、と発表した。ベトナム難民を装った中国人が見つかったのは初めて（朝日1989.08.29）。

『ほぼ全員が中国人 沖縄着のベトナム難民証言』

沖縄・尖閣列島沖で28日発見され那覇市内に仮収容されている難民船の乗船者124人は、ほとんどが中国人である可能性が高いことが、30日までの乗船者らの証言でわかった（朝日1989.08.30）。

しかし、これらの偽装難民の記事は中国人の違法性が伝えられており、ベトナム難民も被害者の一人であると捉えられる記事が以下である。

“偽装難民”「中国人だと話すな」ベトナム人を刃物や木刀で脅す

日本までの航海中「上陸したらおれたたちのことをベトナム難民といえ、中国人であることは話すな」と、再三口止めをし、刃物や木刀をちらつかせて脅したという（読売1989.08.30）。

政府、難民認定を厳格化 生活苦理由の急増で

政府は、このところ急増しているベトナム難民（ボートピープル）対策として、「難民資格認定制度」（スクリーニング）を厳格に実施する方針を固め、外務、法務両省を中心に検討に着手することになった。外務省首脳が二十三日、「ベトナムからのボートピープルは、いわゆる経済難民が多いとみられ、わが国としてもスクリーニングする必要を感じている」と述べ、近く関係省庁による検討開始を明らかにしたものだ（読売1989.08.24）。

出国ブローカー暗躍 旅費徴収し食料用意 入管当局、“偽装難民” 厳重チェック

◆ニセ「出生証明」も◆

“豊かな国ニッポン”を目指して、連日のように九州近海に漂着するベトナム難民船。その中に二百人を超す中国人が潜入していたことが二十九日、新たに明らかになったため、難民に対する入管当局の審査は、にわか厳しさを増した。これまで、単なる生活苦による“祖国脱出”か、政治的迫害によるものかなど、難民かどうかの認定は難しかったが、日本での就業を目的に、難民を装って乗船してきた中国人や、偽造された出生証明書を手にした難民などが多数発見される事態が、受け入れ現場の混乱に輪をかけた格好。組織的に日本へ送り出すブローカーの存在も浮かんでおり、さらに押し寄せそうな難民の波に、入管当局だけでなく、食費や衣類の負担を自腹で賄ってきた漂着先の自治体は、悲鳴をあげている（読売1989.08.30）。

ベトナム船で入港の難民逃走 熊本で山狩り騒ぎ

ベトナム難民船の日本漂着騒ぎは三十日、一層拡大し、同日午前、熊本県牛深市の漁港に入港した船から、難民たちが上陸して逃走、同県警などが捜索隊を組織し、山狩りを行う事態になった。

日本政府が難民に対する身分確認の厳格化などの方針を打ち出したためと見られる。また、鹿児島県トカラ列島近海で、三十日午前、第十管区海上保安本部の巡視船に収容された難民百二人は、同日午後四時すぎ、鹿児島港谷山二区岸壁に到着した。

三十日午前十一時半ごろ、熊本県牛深市の魚貫崎漁港に、ベトナム難民が乗り込んだと見られる漁船が入港し、二、三十人が上陸、近くの見岳に逃げ込んだ。このため牛深署や地元消防団で捜索、一部は自分で帰船したが、十人近くが逃げているため、三十一日未明まで検問を行った。

同署などの調べによると、身柄が確保されたのは、男百三十六人、女二十七人の計百六十三人（うち子供二十人）。この中には、九人の中国人も含まれている（読売 1989. 08. 31）。

④「迷惑・邪魔者」として描くもの

ベトナム難民を「迷惑・邪魔者」として扱う記事はとても少なかったが、以下に紹介する。

ベトナム難民、周辺諸国に拒絶反応 強制送還も交渉

相変わらず流出を続けるベトナム難民に、受け入れ国側が最近、拒絶反応をあらわにしている。難民を母国に強制送還する話し合いも進められており、第1次受け入れ地となる東南アジア各国は先ごろクアラルンプールに集まり、送還する際、ベトナム側に支払う“引きとり代”についてひそかに話し合った。難民が最初に流れつくのが近隣の香港、タイ、マレーシア、フィリピンなど。79年のジュネーブ会議で、欧米先進国が定住者として難民を引き取る約束をしたのをうけ、それまでの「中継役」を引きうけた。しかし、最近先進国側が引き取りを渋って長期滞在が目立つなど「難民疲れ」が目立ってきた（朝日 1988. 10. 13）。

ベトナム難民船に“害虫の同乗者” 入国「待った」 鹿児島【西部】

鹿児島県・徳之島沖の東シナ海で見つかった、ベトナム難民九十一人が乗った二隻の木造小型船に運び込まれていたサツマイモから、アリモドキゾウムシと呼ばれる病害虫が発見された。これは植物防疫法で最も侵入を警戒している病害虫約二十種類の一つで、難民船や密入国船の検疫で発見されたのは初めて、という。

二十年ほど前、鹿児島県開聞町で発見されたときは、駆除するのに四年かかった、という。井上一人同支所長は「水際でくい止めることが出来て、ほっとしている。侵入されたら農業への被害は計りしれない」と話していた（朝日1993年07月29日）。

ベトナム難民再び急増 日本に定住できると信じ

四年前に急増し、その後は減っていたベトナムからのボートピープルが、今年再び急増している。海上保安庁などの調べでは、今年、十六日午前までに、保護した船は十二隻計三百七十一人。昨年一年間の一隻十七人の二十倍、一昨年の十隻三百六十六人も追い越す勢いという。ベトナムで「日本なら定住できる」など、誤解に基づいたうわさが広まり、それを信じて渡ってきたらしい。だれが、何の目的で流しているのかは不明だが、関係省庁はうわさの打ち消しに懸命だ（朝日 1993. 08. 16）。

〈⑤「ずるい」存在として捉えているもの〉

次に「ずるい」というイメージを与える記事を紹介する。

ベトナム難民、那覇入り 1万円札持つ人も

沖縄県・尖閣列島近海を航行中に発見されたベトナム難民124人は23日午前9時10分、巡視船にえい航されて那覇新港に着いた。船は木造だが約100トン。燃料も十分残っており、衰弱した女性と子ども3人を除き、かなり元気だ。岸壁に降り立つと、金の指輪やベトナム紙幣、日本の1万円札を持っている者もいた（朝日1989. 08. 23）。

この記事の「金の指輪をして、ベトナム紙幣と日本紙幣をもつベトナム難民」というのは、以前まで持たれていた「かわいそう、救済の対象」という難民のイメージを崩すものである。

〈⑥「コワイ」という印象を与えるもの〉

③「違法性を強調するもの」にも近いが、ベトナム難民同士での争いや収容所での抗争など、ベトナム難民の「コワさ」を感じさせてしまう記事を以下に載せた。

ベトナム難民同士争い刺殺 東京・国際救援センター内で

三十一日午前一時五分ごろ、東京都品川区八潮三丁目の「国際救援センター」四号棟で、ベトナム人の収容者同士がもみ合った末、けがをした、と一一〇番通報があった。東京水上署員が駆けつけたところ、同センター六号棟に住む少年のグエン・トルオン・タンさん（14）が首や背中を刺され間もなく死亡。同署では、四号棟に住むファム・バン・カン容疑者（30）を殺人の現行犯で逮捕した。

調べによるとファム容疑者は、同日午前零時四十五分ごろ、隣室のめい（15）の部屋から悲鳴が聞こえたため駆けつけたところ、室内にいたグエンさんが包丁で突然切りかかってきたため、もみ合いとなり、取り上げた包丁で首や背中などを刺した疑い。同容疑者も右手に大けがを負った。

同センターには現在、ベトナム人二百五十四人が収容されている（読売 1992. 01. 31）。

ベトナム難民21人焼死 香港の収容所で内部抗争

【香港4日＝本田伸一】三日午後十一時（日本時間四日午前零時）ごろ、香港新界地区の石崗にあるベトナム人ボートピープルの収容センター（八千九百人収容）で、北系ベトナム人の住む施設に南系ベトナム人が多数押しかけ、窓ガラスを壊して火のついた毛布を室内に投げ入れた。寝ていた八百六人の北系ベトナム人のうち二十一人が逃げ遅れて焼死したほか、百十九人がやけどやケガをした。

香港政庁の調べでは、三日午後六時ごろ、北系、南系両グループが共同シャワーの使用をめぐる口論となり、係員の仲裁で一度はおさまったものの、南系グループが北系ベトナム人の住む施設に金網を壊して乱入、放火したという（読売 1992. 02. 05）。

香港でベトナム難民と警官衝突、約200人重軽傷

香港政庁などによると、香港の新界地区にあるベトナム難民収容センターで二十日、警官隊と難民が衝突、警官ら約百七十人と難民三十人が重軽傷を負った。

政庁は九七年七月一日の中国返還までに、二万人以上いる難民全員を本国に送還する計画で、二十日も、その準備として、難民千五百人を同センターから別の収容所に移動させようとしたところ、九百人は順調に移動したものの、難民約六百人が投石などで激しく抵抗し、これに警官隊が催涙ガスで応酬した（読売 1995. 05. 22）。

香港のベトナム難民収容所に放火、140人脱走

香港新界・沙田の白石ベトナム難民収容所で十日、難民たちがベトナム本国への強制送還に抗議して、収容施設や車両に火を放ち、うち約百四十人が施設から脱走し、過去数年間では最大規模の騒動となった。

騒ぎが起きたのは、同日未明。難民が宿舎二十六棟と車両五十三台に放火し、職員十五人を人質に立てこもった。一部の難民はこれに乗じて、施設を囲う金網を破り、次々に脱走。このため、香港警察隊が出動、催涙弾五百発を発射する事態となり、騒動は同日夕までに、ようやくおさまり、約七十人が収容所に連れ戻されたが、残りは逃走中。多くは女性や子供だったという（読売 1996. 05. 11）。

〈⑦難民の活躍を伝えるもの〉

ベトナム難民の活躍を伝える記事は1986年頃からあり、想像以上に多くあった。

難民少女いま主役 ベトナムのビイちゃんを伊合唱団が起用

新潟県柏崎市の難民受け入れ施設に住むベトナム難民の少女が、イタリアのアントニアノー少年少女合唱団の音楽ショーの主役に起用されることになり、22日夜、父親と2人で出発する。ウィーン少年合唱団（オーストリア）や木の十字架少年合唱団（フランス）と並んで世界的に有名な合唱団の主役とあって、各地のベトナム難民や日本人ボランティアたちの間で、現代版の「シンデレラ物語」として、もちきりだ（朝日1986. 09. 21）。

ベトナム難民の元医師のダットさん、アフリカ難民を救援に

ボートピープルとして5年前に来日したベトナム難民の元医師トラン・グエン・ダットさん(35)＝埼玉県朝霞市浜崎3丁目＝が21日、アフリカ・ザンビアの難民キャンプで1年間、ボランティアとして医療活動に従事するため出発する。ベトナムにも多い熱帯病の知識を生かすことができ、現地も待ち望んでいるという(朝日1990.01.20)。

ベトナム難民のランさん 来日11年 善意に包まれ、けさ医大卒業式

十一年前、故国を後にして十五歳で日本の土を踏んだベトナム難民の女性が、本人の努力と家族や多くの支援者の善意に支えられて十日、神奈川県川崎市の聖マリアンナ医科大を卒業した。来月には早速医師国家試験に挑戦するが、合格すれば、ベトナム難民で初の医師が誕生する。医大卒業に難民仲間のもとより、日本人学生たちからも惜しみない拍手が送られている。

ランさんは来月一日から東京・中央区の聖路加国際病院の小児科で、研修医の白衣を着る。「医師と言葉が通じないため、ベトナム難民の母親たちが、子供の病気の症状さえわからないでいる。医師になれば、そんな不安を取り除く手助けをしたい」と、次の試験に意欲を燃やしている(読売1990.03.10)。

ベトナム難民も普通科へ3人合格 足利南高へグエン・エ・チさん

県立高校全日制の合格発表に沸いた15日、県内に住むベトナム難民にも朗報が舞い込んだ。これまでなかなか合格者の出なかった普通科へ3人も合格者が出たからだ。

「家族はみんな、大喜び。コンピューターを勉強したい」とブウンさんの声は弾んでいた。「本人や家族だけじゃない。うちには他にも難民の生徒がいる。その全員の励みなんです」。同中の教諭らの声も明るく響いていた(朝日1990.03.16)。

▽…八年前、ベトナムを脱出した難民のブイ・クアン・サムさん(28)＝写真＝が秋田大学医学部に合格し、十日、秋田市の秋田県民会館で行われた同大学入学式に出席した。難民の若者が日本の国立大医学部に合格したのは初めて。

▽…サムさんは、ホーチミン市医科薬科大(旧サイゴン大)医学生だった一九八二年七月、自由を求めて日本へ。以後、医大入学を目指して働きながら勉強を続けてきた。

▽…サムさんはこの日、グレーの背広にネクタイ姿。緊張した面持ちで入学式に出席、「喜びも大きいけど、不安な気持ちも強い。同胞のために尽くすという思いを支えに頑張りたい」と希望に胸をふくらませていた(読売1990.04.10)。

ベトナム難民のレイさん、苦学実り薬剤師試験に合格 来日11年目

ベトナム難民のトラン・ミ・レイさん(26)が27日、薬剤師試験に合格した。来日11年目。奨学金を受けながらの苦学が実った(朝日1990.04.27)。

『日本で働くベトナム難民描いた「ナンミン・ロード」完成』

主演はボート・ピープルから

日本で働くベトナム難民を真正面から描いた映画「ナンミン・ロード」(五十嵐匠監督)が完成した。主演は、「ボート・ピープル」として日本に来たベトナム人三人。いずれも演技は初めての素人俳優だ(読売1992.02.13)。

〈⑧「けなげ」なイメージ〉

次にベトナム難民が日本語の勉強などを「けなげに頑張る姿」を描いている記事を見る。

ベトナム難民ゴン君、ピカピカの中学生 犬養さんの奨学基金で

ベトナム難民のレ・ティエン・ゴン君(14)が7日、千葉県木更津市の私立暁星国際中学校へ入学する。難民の子どもたちに教育を、と評論家犬養道子さんが設立した基金の第1号の奨学生に選ばれたからだ。日本に来てまだ1年にしかない。中学の授業についていけるかどうか心配だったが、海外からの帰国子女を受け入れている同中なら何とかやっていけそう、と7日の入学式を楽しみに待っている。犬養さんは第2、第3のゴン君を出したい、と基金への募金を呼びかけている。

ゴン君は、独りで日本へやってきた。一昨年3月、父親レ・バン・カイさん(45)のいる東京を目指して2、30人のベトナム人と小さなボートに乗り込んだ。途中、フィリピンに漂着、その難民キャンプで1年間、英語を学んだ。ベトナムに残った母と姉弟に手紙を出し、カイさんと連絡がついて去年の3月、日本へ来ることになった。はじめ3カ月、兵庫県姫路市の定住促進センターで日本語の勉強をして父のいる東京へ(朝日1986.04.04)。

「幸せは自分でつかむもの」藤沢北高のベトナム難民グエン君

ベトナム難民として10年前に来日したグエン・トン・クワン君(19)が、1日行われる神奈川県立藤沢北高校の卒業式で、卒業生531人を代表して答辞を読む。先生たちのバックアップもあり、苦手だった漢字も次第に克服。3年生の成績は10段階評価で国語が7、あとの科目は9と10ばかりで、理科系の生徒の中ではトップクラスだという。この3年間、放課後は陸上短距離の練習をしたあと、夜は週に4日、スーパーで働いて家計を助けた(朝日1989.03.01)。

【気流】胸打つベトナム苦学生の志 主婦・遠藤ゆかり 34 =千葉県八千代市

五年前にベトナム難民の父と兄を追って来日した大学生グエン・バー・ツェットガーさんが、国籍や性別にこだわらない「ボーダーレス採用」に踏み切った旭化成に内定したという。

「日本で化学を勉強したい」一心から、定住促進センターや日本語学校、夜間中学で日本語を学び、来日二年で上智大理工学部に合格とは頭が下がる。入学後も講義を録音、帰宅後に再生して復習したという。しかも、アルバイトを続けながらだ。世間体を気にして大学に進学し、目的意識は薄いと言われる日本人学生に比べ何と意欲的なことだろう（読売 1996. 10. 12）。

〈⑨交流を深める存在〉

日本人とベトナム難民の交流を描いている記事は多くなかったが、以下に紹介する。

20日間の出会いは忘れない 東京・葛飾のベトナム難民 再び救援センターへ

◆ 地元が冬物古着をプレゼント きょう最後のラジオ体操 ◆

葛飾区堀切の一時宿泊施設「葛飾荘」に身を寄せていたベトナム系難民二十九人がきょう三十一日、品川区八潮のベトナム難民入所施設「国際救援センター」に戻ることにになり、引っ越しを前にした三十日夜、一緒にラジオ体操をして交流を深めた地元のお年寄りから、冬物の古着約九十着をプレゼントされた。

ベトナム系難民の一行は今月十二日から同荘に入居、地元の体操グループ「葛飾区ラジオ体操連盟堀切会」=寺村省三理事長（73）=の誘いを受け、近くの堀切公園で早朝のラジオ体操をするようになった。

初めはほとんど言葉を交わすこともなかったが、日を迫うごとに交流が芽ばえ、難民たちにとって、お年寄りたちとの体操は、楽しい日課の一つになった。

ところが、着のみ着のまま日本に来て、夏物の衣類しか持たない難民たちは秋が深まるにつれ、寒さを痛感するようになり、ラジオ体操への参加も渋るようになった。こうした事態に、寺村理事長は地域の町会などに働きかけ、暖かい冬物の古着を贈ることを提案。あっという間に約九十着のセーターやジャンパーなどが集まった。

三十日夜同荘で開かれた壮行会には、別れを惜しむお年寄りらが続々と集まり、「センターに戻っても頑張ってください」と激励。同堀切会のメンバーの一人、野本寿々子さん（63）から冬物の古着を代表して受け取ったグエン・フンさん（32）は「ラジオ体操のことや、お年寄りたちの親切のことは一生忘れません」と目をうるませていた（読売 1989. 10. 31）。

「震災でも秩序守る素晴らしい民族」 元難民「日本に恩返し」=大阪

◆ 八尾のトゥアンさん募金活動

東日本巨大地震を受け“第二の古里”の日本を少しでも助けようと、八尾ベトナム人会長のラ・コック・トゥアンさん（45）が同会のメンバーらと募金活動を行っている。計67万6000円が集まり、市に託し、日本赤十字社を通じて、被災地に届けられる予定だ。

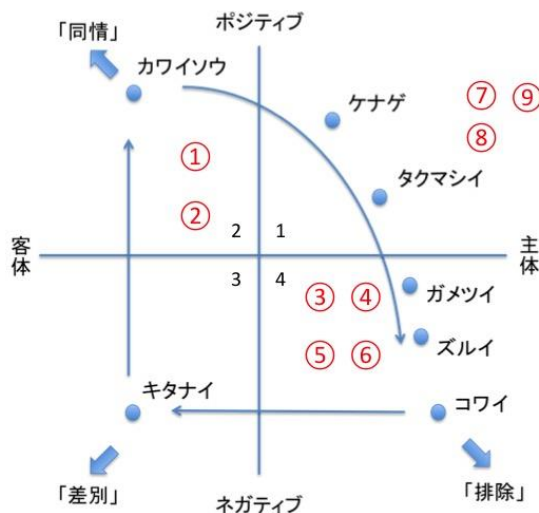
津波に押し流される車、家々……。トゥアンさんは地震の報道を見るたび胸が締め付けられる。その一方で、「大震災が起きても、混乱せず、おにぎりを分け合い、給水車にもきちんと並ぶ素晴らしい民族」と実感するという。

「自分を難民として受け入れてくれたこの国の人に恩返しをしたい」と、地震発生翌日から、八尾市内で仲間が営む飲食店など6か所に募金箱を置いた。ベトナムや大阪に住む知人らにも協力を呼び掛け、義援金を送ってもらった（読売 2011. 03. 29）。

3-1-3. ベトナム難民に関する記事分類に対する考察

ベトナム難民の記事は、①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」として描いているもの、②「生きづらさを感じている存在」として描くもの、③違法性が強調されているもの（経済難民・偽造難民）、④「迷惑・邪魔者」として描くもの、⑤「ずるい」存在として描くもの、⑥「コワイ」という印象を与えるもの、⑦難民の活躍を伝えるもの⑧「けなげさ」を感じさせるもの⑨「交流を深める存在」として描くものの九つに分類することが出来た。この時点で、朝日新聞と読売新聞の「ベトナム難民」の報道の仕方が一つのフレームに一貫されているわけではないことが分かる。そして、それぞれのフレームを「図5 イメージ枠組みと行動」の図に当てはめてみると、以下の図のようになる。

【図7】



(出典 図5に筆者加筆)

分類分けの種類で見ると第四象限が多く見えるが、④⑤⑥の分類に当てはまる記事数は少なかった。また③に当てはまる記事数は多かったが、ここでは特に中国の偽造難民の記事が多く、ベトナム難民自身もその被害者として描かれる記事も存在し、「ベトナム難民の主体性×ネガティブ」というより「中国偽造難民の主体性×ネガティブ」のものが多かった。私が一番驚いたのは「主体×ポジティブ」な第四象限に位置する記事が予想以上に多かったことである。当初私は、第一象限に当てはまる記事が少なく、「ネガティブ」なイメージだけを植え付けてしまう記事が多いことが、「3-3. ベトナム難民へのアンケート」からも分かるように現在も続くベトナム難民の差別に影響を与えてしまっていると予想していた。さらに⑥難民の活躍を伝えるものも⑦

「けなげさ」を感じさせるものも、最近の記事だけでなく、1980年代から存在していた。

次に記事検索をして分かったことを述べていく。まず、時代順に記事を検索していく中で、1989年8月29日頃から偽造難民や不法入国が強調される記事が急激に多くなったことに気がついた。また、1990年に入ると大学医学部に合格したベトナム難民の話など明るい記事が増え始めた。そして、1996年にUNHCRが“経済難民”に対する国際的な保護を打ち切り、本国への帰還を求めていくと発表したため、以後、送還の記事が増えた。更に2000年代に入ると、夜間学校を増やして欲しいという声や補修教室などの支援の記事が増えていることが分かった。

また、読売新聞では、タイトルに子供の存在を強調する記事がいくつか見られた。

奄美沖にベトナム難民 木造船に子供ら17人 きょう23日鹿児島へ

二十二日午前五時四十五分ごろ、鹿児島県奄美大島・曾津高崎西約百五十キロ沖の東シナ海で、難民船らしい小型木造船が東に向け時速約九キロで航行しているのを同県枕崎市の漁船が見つけ、第十管区海上保安本部（鹿児島）に通報した。

十管のビーチクラフト機や巡視船「あまみ」が出動、同船を確認するとともに、同日午後七時半ごろ、同島の西約二十二キロで日本の領海に入ったところで、「あまみ」が立ち入り検査。ベトナム人と見られる十七人が乗り組んでおり、二十三日未明、巡視船「せんだい」に移乗させ、同日午後、鹿児島港に入港する予定で、福岡入国管理局鹿児島出張所が仮入国審査をする。

調べによると、船は三―四トンくらいで全長約十五メートル。船首部分に「4849」の表示があり、旧南ベトナム国旗を掲げている。乗っていたのは、大人十二人（全員男性）と子供五人（七―十六歳、男三人、女二人）で、病人、負傷者はいなかった（読売1992.06.23）。

ベトナム難民、鹿児島に上陸 親子連れも

鹿児島県奄美大島沖の東シナ海で発見されたベトナム難民船と見られる木造船に乗っていた十七人は、第十管区海上保安本部（鹿児島）の巡視船「せんだい」で二十四日午前九時すぎ、鹿児島港に着き、鹿児島市の福岡入国管理局鹿児島出張所に収容された。出張所は同日午後から仮上陸のための入国審査をする。

大人十二人（全員男性）と子供五人（七―十六歳、男三人、女二人）で、手をしっかりと握り合った親子連れと見られる二人もいた。ポロシャツ姿の人が多く、大半が素足で、なかにはラジカセを手にした人も。全員元気でシャワーを浴び、支給された弁当を食べた（読売1992.06.24）。

これらは記事の中で子供について多く語られている内容ではないが、タイトルに入れることによって、読み手の関心と呼ぶ効果があるだろう。

3-2. シリア難民報道

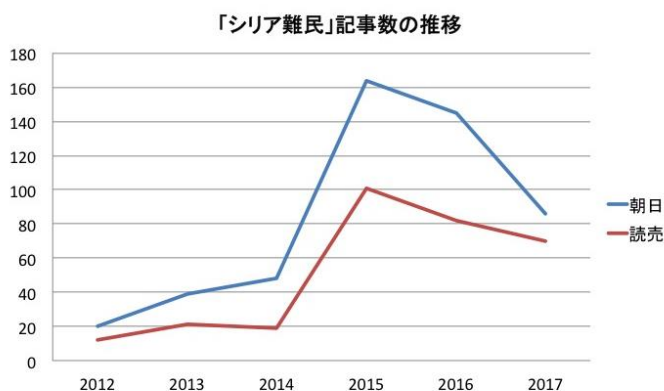
3-2-1. シリア難民

2011年に紛争が勃発するまで、シリアは2200万人以上の人々が暮らす、観光業の栄えた国だった。「アラブの春」と呼ばれる民主化運動の波がシリアにも及び、2011年2月にダルアーで起きた小規模なデモに始まり、民主化運動が内戦へと変化した。紛争により200万人ものシリア人が死傷、約2400人の幼い命が失われた。そして、4分の1の学校が破壊され、農場も荒地となった。シリア国内の病院の半数以上は機能せず、食費も900%値上り、シリア人の半数以上が避難を強いられた⁷。内戦は2016年12月、ロシア主導で停戦が合意されたものの、その合意も順守されず、先行きは不透明なままだ⁸。2017年までに550万人以上がシリア難民となり、シリア国内においても多くの人々が人道支援を必要としている。しかし、シリアの近隣諸国は難民の受け入れに限界を迎えつつあり、西洋諸国はテロの恐怖や排他主義の高まりから入国管理を厳格化し始めた。シリア危機は今世紀最大の難民危機かつ人道危機とも言えるのだ。

3-2-2. シリア難民に関する記事分類

朝日新聞の「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞の「ヨミダス歴史館」では、シリア難民に関する記事は朝日新聞の2012年以降～2017年までで502件、読売新聞の2012年～2017年で288件であった(2017年12月19日現在)。以下の図が年代別、新聞社別に表した記事数の変化である。2015年の記事数が多くなっていることが分かる。

【図8】



朝日新聞、読売新聞双方に共通して記事内容になっていたものはおよそ以下である。

- ・ 日本政府からシリア難民に対する支援金
- ・ シリア難民支援
- ・ シリア難民増加
- ・ 難民キャンプでの生活
- ・ イスラム国関連の記事
- ・ 難民の男児遺体 漂着写真 トルコ海岸

⁷国連 UNHCR 協会, 2017, 「Searching for Syria」, (2017. 12. 30 取得, <https://searchingforsyria.org/ja/where-are-syrian-refugees-going/>)

⁸特定非営利活動法人 難民を助ける会, 2017, 「シリア危機とは」 (2017. 12. 30 取得, http://www.aarjapan.gr.jp/activity/emergency/syrian_refugee/detail13)

- ・他国のシリア難民受け入れ拡大
- ・難民密航船の転覆
- ・国際関係
- ・パリ同時多発テロ（シリア難民 迫害懸念）
- ・「不法移民」送還始まる トルコへ
- ・トランプ大統領シリア難民 受け入れ停止

これらの記事の中でシリア難民がどのような存在として描かれているのかを見た結果、六つに分類することが出来た。①「過酷で悲惨な状況を生きる人」として描いているもの、②「支援すべき存在」として描いているもの③「行き場のない姿」を描いたもの④「テロリストの被害者（入国拒否・差別）」として描くもの⑤違法性を示すもの、⑥「たくましく生きるシリア難民」の6つである。以下、①から順に分類ごとに当てはまる記事の例を紹介していく。

〈①「過酷で悲惨な状況を生きる人」として描いているもの〉

過酷な環境で生きるシリア難民の様子を描いた記事は、大きく分けて、シリア国内での紛争の悲惨さ、難民キャンプや避難先での様子を描いたものと密航船の様子を描いたものの三つである。これらの記事では写真が多く用いられていた。

シリア難民、逃げ場なし 政権の弾圧恐れ隣国へ数万人

アサド政権による反体制派弾圧が続くシリアから周辺国へ脱出する人たちが増加の一途だ。だが、命からがら脱出しても安住はできない。レバノンではアサド政権を支える勢力も多いため、避難した人々は息を潜めるように暮らす。

●親アサドの影、息潜め生活 レバノン

レバノンのシリア難民は1万6千人超。北部トリポリやベカー高原などに集中し、民家や倉庫で暮らす。

10日前、シリア中部ホムスのババアムル地区からトリポリに逃れた男性（41）は昨年3月、デモに参加し、8カ月間拘束された。「アサドの写真に忠誠を誓えと命じられた。拒否すると両手を踏まれ、電気ショックを受けた」。3月上旬、脱出を決めた。男性らは「帰国すれば殺される」と口をそろえる。

ホムス近郊クサイル出身の中学3年の女子生徒（15）は、2人の兄弟、祖父母とともに徒歩で国境の山を越えた。父親は2カ月前、頭を狙撃され全身不随に。看護師の母親は反体制派の「野戦病院」での勤務を志願した。生徒は「学校に行きたい。お母さんや友達に会いたい」。

イスタンブールを拠点に周辺国でシリア難民を支援している「シリア人高等救済委員会」のヌール報道担当者は「命からがら逃れてきた難民が自力で家賃まで払っている」と語る（朝日2012年04月01日）。

いらだつ難民キャンプ 「停戦なんてうそ」 シリア国境・トルコ南部キリス

トルコ南部キリスの丘陵地帯にあるシリア難民のキャンプに18日、記者が入った。約2千戸のコンテナ式仮設住宅にシリア軍の弾圧から逃れてきた約9300人が暮らす。アナン前国連事務総長の仲介で12日朝から始まったシリア軍と反体制派の停戦は大枠で守られているが、難民たちによると局地的な戦闘は続いているようだ。人々は将来を見通せず、いらだっていた

「兵士は去っていない。戦車も大砲も見える。戦闘は続いている。停戦なんてうそだ」

キャンプで暮らす男性が記者の目の前でシリア北部アレッポ近郊にいる友人に電話すると、そんな答えが返ってきた。

アレッポ近郊の村から2週間前に逃げてきたという病院職員の男性(37)が、携帯電話の動画を見せてくれた。黒こげの部屋の中で、折り重なった女性の遺体が映っていた。撮影は停戦3日前の9日。隣家を兵士が襲い、7人が死亡した時のものだという(朝日2012年04月20日)。

砲弾越境、眠れぬ日々 近隣直撃「次は我が家」 シリア国境・トルコ南部アクチャカレ

シリアからの砲撃を受けたトルコ南東部アクチャカレの民家は国境からわずか200メートルだった。5日、現地に入った。民家の壁は崩れ、窓は割れ、穀物倉庫には穴が開いていた。住民たちは「死者が出るまで誰も私たちの訴えに耳を傾けてくれなかった」と怒りを募らせていた(朝日2012年10月06日)。

僕が働かなきゃ シリア難民の子、100万人超 隣国避難、乏しい収入

シリア内戦の戦火を逃れ、周辺国で暮らす難民の子どもが100万人を超えた。避難先では家族を養うため、働く子どもも少なくない。

レバノンの首都ベイルートの繁華街・ハムラ地区。カフェや洋服店が軒を連ねる通りに夜、バラを抱えた子どもが並ぶ。多くはシリア難民の子だ。車や通行人に花を差し出すが、買う人はほとんどいない(朝日2013年10月04日)。

シリア難民 決死の脱出 レバノン国境 「爆音と銃声 耐えられない」

首都ダマスカスなど主要都市が戦場と化したシリアから、住民の国外避難が続いている。隣国レバノンの国境の町マスナアでは、命がけの脱出を強いられ、家族とも引き裂かれた市民たちが、「いつ戻れるのだろうか」と不安を口にした。(レバノン東部マスナアで 貞広貴志)

25日午後、炎天下の国境は、屋根の上まで家財道具を積んだ車が長蛇の列をなした。富裕層が乗っているとみられる、シリア・ナンバーのBMWやメルセデス・ベンツなど高級車も目についた。

ダマスカス近郊の両親の家に身を寄せていた主婦ルーラさん(19)(仮名、以下同じ)は同日朝、シリア政府軍に包囲された首都郊外の町を母親とともに、徒歩で抜け出した。やっとたどり着いた首都中心部のター

ミナルで町に残る母と別れた。「爆音と銃声が続く暮らしには、もう耐えられない。ごめんね」と謝る娘に、母は「神の加護がありますように」と声をかけた。2人は泣きながら抱き合った（読売2012.07.27）。

砂漠の夜「娘泣きやまぬ」 ヨルダン北部のキャンプ シリア難民56万人

「生後7か月の娘が泣きやまない。寒さのせいだ」。シリア南部ダラア近郊の自宅が政府軍の砲撃で破壊され、約2週間前にマフラクのザアトリ難民キャンプに入ったバーセム・ハラキさん(34)がため息をついた。

「砂漠地帯にあるキャンプは夜になると5度前後まで気温が下がる。夫婦と子供4人に支給されたのはテントに毛布6枚、マットレス2枚のみ。一家で抱き合って眠り寒さをしのぐ。「爆音が聞こえないだけでした」と自嘲気味に話した（読売2012.12.31）。

難民船転覆、両腕に兄弟 救おうとしたが… 父の証言、親族が明らかに

トルコの海岸に遺体が打ち上げられ、シリア難民を巡る世界的な議論のきっかけになったアイラン・クルディ君(3)の最期の様子を親族が明らかにした。アイラン君の叔母が住むカナダでは5日、市民約200人が集まり、国際社会が難民問題に取り組むよう訴えた。

バンクーバー市内で開かれた集会で、アイラン君の叔母ティマ・クルディさん(44)は「アイランたちは食べ物も十分になく、おもちゃで遊ぶことも出来なかった。生まれた時からつらい生涯だった」と言葉を詰まらせた。

ティマさんの夫ロッコ・ロゴツォさん(50)によると、一家で唯一生き残った父親のアブドゥラさんから電話があったのは2日昼だった。アブドゥラさんによると、一家はトルコからギリシャに密航しようと、約20人の難民とボートに乗り込んだ。海は穏やかで、30分程度で着くはずだったという。カナダの地元紙によれば、目指したのは約5キロ離れたギリシャの島だった。

しかし、途中で大きな波が襲い、ボートが転覆。アブドゥラさんは水の中で必死に子どもたちを両腕に抱えた。ロッコさんによるとアブドゥラさんは「右腕にアイラン、左腕に(兄で5歳の)ガリブを抱え、何とか水の上に浮かこうとした。でも、しばらくすると、腕の中でガリブが目を閉じていることに気づいた。やがてアイランも目を閉じた。子どもたちを一人ずつ海の中で手放さなければならなかった」と話したという。気づくと、妻も海に消えていたという（朝日2015.09.07）。

②「支援すべき存在」として描いているもの

②の分類では実際にシリア難民支援をする日本人やシリア難民に思いをはせる日本人を描くことで、シリア難民をより近い存在に感じることができる。ただ、そのような記事よりも日本政府が〇〇億の支援金を決定した等の記事が多かった。以下にも載せてあるが、支援金の記事は支援対象であるシリア難民の顔が浮かびづらい。

善意の輪 シリア難民へ 被災地救援の衣類輸送

◇震災 復興

東日本大震災の被災地で支援活動を続けてきた東京都港区の佐藤麻衣子さん（34）が、被災地で使われなかった救援物資をトルコに逃れているシリア難民に届ける活動を進めている。被災地で知り合った仲間の協力を得て、約5000着の子供服など衣料や靴、毛布などを段ボール約1100箱に詰め、15日から現地への輸送を始めた。

◆震災支援の女性が尽力

佐藤さんは、米国の医療系の慈善団体の一員として、宮城、岩手、福島県の仮設住宅でお茶会を開くなど、被災者をつなぐコミュニティーづくりや心のケアに携わってきた。

昨年12月に中東を襲った寒波で多くのシリア難民が犠牲になったことを知り、「力になりたい」と思った佐藤さん。被災地で使われずに保管されている毛布や古着の提供を支援団体や自治体に頼んだところ、約10トンが集まった。仮設住宅の人々も「震災の時に助けてくれた外国に恩返ししたい」と応援してくれた。トルコとの橋渡しには日本トルコ文化交流会（東京都港区）が協力したほか、物資の輸送はトルコ航空が無償で協力してくれた。

佐藤さんはこの活動を宮城県気仙沼の方言で「ここさいるでば（ここにいるよ）」と名付けた。物資提供を求めていたトルコの民間団体「キムセヨクム（誰かいますか）」への返事の意味を込めた。佐藤さんは「つらい時は支えてくれる人がいる。そのことを知るだけで、生きる勇気がわいてくると思う」と話している（読売 2014.02.16）。

シリア、平和祈る心つなぐ 支援団体が署名呼びかけ 今月急増、1万人突破【名古屋】

シリアの平和を願う署名に協力を」。難民支援に取り組む市民団体が8月からネット上でこんな呼びかけをしたところ、今月に入って署名が急増している。米国によるシリア攻撃の可能性が続くなか、非戦の思いを持つ人々の心を結びつけた。

署名集めをしているのは、アラビア語で「友情」の意味を持つ「サダーカ」（横浜市）。昨年3月、三重県桑名市出身の代表田村雅文さん（33）ら青年海外協力隊などで活動したことのある人を中心に結成した（朝日2013年09月11日）。

Xマスに手編み200人分 シリア難民の子どもたちへ、七ヶ浜・仮設の女性ら／宮城県

内戦を逃れヨルダンに避難しているシリアの子どもたちに使ってもらおうと、東日本大震災で被災した七ヶ浜町の女性たちが編み物で衣類を作っている。主宰するのは、6年前から町で暮らす米国人女性。23日には、難民キャンプに向け、200人分の衣類を送り出す（朝日2013年11月22日）。

美しいシリア、笑顔に見つけた ドキュメント映画、3・4日都内で上映 /東京都

故郷を懐かしむ女子学生、家族を案じる青年。内戦で国を追われたシリア人の声を日本に届けようと、フリーの映像作家、藤井沙織さん(31)がドキュメンタリー映画を作った。紛争の悲惨さばかりが報じられるなか、難民らの心の中にある美しいシリアを描いている。

「本当に幸せな毎日を送っていたの」と故郷に思いをはせる19歳の女子学生。妻子とヨルダンに住むサダーカ代表の田村雅文さん――。映画では、故郷や家族への思いを時に笑顔で語る難民たちのほか、支援に奮闘する日本人も描かれる。藤井さんは「戦火のシリアを描いた映画は何本もある。人々の心にある美しいシリアを描きたかった」と話す(朝日2015年10月02日)。

シリアの現状 絵本で訴え 品川のNGO 「難民も普通の人」=東京

内戦が続くシリアの現状を知ってもらい難民支援につなげようと、トルコなどでシリア難民の支援を続ける国際NGO「難民を助ける会」(品川区)が、絵本「サニーちゃん、シリアへ行く」を出版した。同会理事長の長有紀枝(おさゆきえ)さん(53)が支援活動で出会ったシリア難民が、モデルになっている。

絵本は、主人公のうさぎ「サニーちゃん」が、テレビで見かけたシリアの女の子のために、内戦で離ればなれになった女の子の友達を捜しにトルコや欧州へ飛んでいくことから始まる。その過程で、地雷で足を失った男の子や、通っていた学校が爆破された女の子などに会い、平和への願いを強くするというストーリー。絵は画家の葉祥明さん(70)が報道写真などを参考に描いた。

長さんは、昨年トルコを訪れた際、じゃがいもしか食べるもののない家族や、「同じ死ぬなら故郷で死にたい」と空爆下のシリアに戻っていった難民の姿を見てきた。絵本の登場人物には、そんな人々の面影を重ねた。「難民の人たちも、元々は私たちと同じ普通の暮らしをしていたことに気づいてほしい」(読売2016.09.24)

しかし、これらの記事よりも以下の様な政府が拠出した支援金の記事の方が多かった。

(地球24時)シリア難民キャンプを訪問 岸田外相

中東を歴訪中の岸田文雄外相は26日、内戦が続くシリアから逃れた難民が住むヨルダン北部のザアタリ難民キャンプを視察した。

同キャンプは昨年7月に開設された。難民数は約13万人に達し、世界で2番目の規模。人々はテントで生活し、学校や病院、食品やウエディングドレスを扱う店もある。新生児も週に約50人生まれているという。

シリア内戦による死者数は10万人を超え、国外への難民は160万人以上になった。

シリアの人道危機に対し、日本は国際機関などを通じて計約9千万ドル(約88億7千万円)を支援している(朝日2013年07月27日)。

シリア難民など支援、日本970億円拠出 国連で表明へ

安倍晋三首相は29日午後（日本時間30日午前）、米ニューヨークで開かれている国連総会で演説し、シリアなどの難民支援に今年1年間で去年の約3倍となる約8・1億ドル（約970億円）を拠出することを表明する。また、安全保障関連法が成立したことを報告し、国連平和維持活動（PKO）に一層貢献していくことも訴える（朝日2015年09月30日）。

③「行き場のない姿」を描いたもの

シリア国内の内戦の激化により避難を余儀なくされた難民であるが、避難先でも入国を拒否されたり、送還されたりと八方塞がりの様子が描かれている。

シリア難民 国境間で動けず ヨルダン入国拒否、「無人地帯」に3000人

内戦下のシリアから逃れた難民約3000人が、隣国ヨルダンへの入国を認められず、両国の国境間にある「無人地帯（緩衝地帯）」で野宿生活を強いられている。難民らは戦闘が激化しているシリアに戻ることも難しく、中ぶらりんの状態となっている。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）などによると、無人地帯の難民は7月から発生。難民への電話取材によると、今月23日現在、同地帯には3000人おり、多くが高齢者だという。ダラアから逃げてきたウエルマさん（65）は電話取材に対し、「もう20日間以上ここにいる。シリアに戻るのも怖い。お願いだから、ヨルダンに入れてくれ」と訴えた（読売 2013. 09. 25）。

EU難民送還、窮余の合意 加盟国に亀裂、密航封じ急ぐ=訂正・おわびあり

■「人権ある国で生活を」ギリシャの港、足止め5000人

EUとトルコの「難民送還」合意に、ギリシャで立ち往生する難民・移民の間に失望が広がっている。

アテネ近郊ピレウス港では、対岸のトルコの島からフェリーで着いた約5千人が、倉庫や野外のテントで寝泊まりしていた。

「ドイツが受け入れてくれると思って来たのに」。イラクのシンジャルから来たというマハサラ・バラカトさん（40）は憤った。一家は過激派組織「イスラム国」（IS）に迫害されるヤジディ教徒で、家族3人を殺されたという。先にドイツへ渡った母らを家族12人で追っている。「財産はすべてISに略奪された。私たちに人権のある国での生活は認められないのか」

今回の合意で、隣国マケドニアなどが国境を再び開く可能性はゼロに近くなった。難民らに残された道はギリシャでの難民申請だが、多くの人は拒む。

「ドイツで待つ夫は、まだ、この子の顔を見ていない。欧州ならどこでもいいわけではない」。生後6カ月のハニンちゃんに配給のミルクを与えながら、シリア北西部イドリブ出身のイマンさん（17）は話した。「シリアへ帰れというのか」（朝日 2016. 03. 20）

残れば空爆、逃げてでも苦境 シリア住民、遠い安住

シリア内戦の停戦を目指す国際社会の取り組みが失敗を繰り返す中、北部アレッポなど激戦地の住民は逃げ場のない苦境に追い込まれている。何とかシリアを脱出できても、将来の希望なくキャンプにとどめ置かれたり、家族と離ればなれだったり、人間らしい暮らしにはほど遠い（朝日2016.10.20）。

④「テロリストの被害者（入国拒否・差別）」として描くもの

過激派組織「イスラム国」の迫害により財産や家族を奪われ、避難を余儀なくされたシリア難民であるが、避難先においても「イスラム国」の犯行により、排斥や差別の動きに苦しめられる。パリ同時多発テロの後には、過激派と同一視されてしまうのではないかというシリア難民の恐れや不安が描かれていた。また、テロとの関係だけでなく避難先の国の政策や国民の空気感によっても難民の立ち位置は不安定に変化していた。

シリア難民 迫害懸念 同時テロ パリ 「反イスラム」の兆し

【パリ＝井口馨、水野祥】イスラム過激派組織「イスラム国」の犯行とみられる同時テロを受け、パリでは反イスラム感情の高まりが懸念されている。犯人の1人がシリア難民に登録されていたとの情報もあり、パリ市内で暮らすシリア難民の間では、過激派と同一視されることへの不安が広がっている（読売2015.11.18）。

テロの闇、欧州各地に 容疑者、国境越えつながら ベルギー爆発

ベルギーの連続テロで、同国保健省は28日、入院していた負傷者が亡くなり、死者が35人になったと発表した（自爆犯3人を含まず）。約370人の死傷者を出した惨事から29日で1週間。昨秋のパリ同時多発テロとつながる容疑者らのネットワークは、国境を越えて広がっていることが分かった。難民やイスラム教徒の住民は、差別や偏見を恐れる。

■排斥・差別の動きも イスラム教徒・難民ら不安

27日、追悼のために市民が集っていたブリュッセル中心部の広場に、難民排斥を掲げる極右勢力の支持者ら約300人が乱入した。

「ここは我々の家だ」とスローガンを叫び、発炎筒をたいた。機動隊が取り囲んで排除した。

人口約1150万人のベルギーに、シリア人を含む難民3万人以上が暮らす。

パリの事件のアバウド容疑者は、難民流入の混乱に乗じてシリアから欧州に戻り、犯行に及んだとされる。テロ事件でシリア難民やイスラム教徒への風当たりが強まらないか。そんな懸念が現実になった。

イスラム教徒の女子学生ラウリさん(21)は地下鉄に乗るのをやめた。西洋風ではない顔立ちのためか、「じっと見られる」。「ベルギーはお前たちの国じゃない」とも言われた（朝日2016.03.29）。

排除の空気、シリア難民注視 クーデター未遂のトルコ

7月中旬にクーデター未遂事件が起きたトルコには、内戦を逃れた約300万人のシリア難民が暮らす。エルドアン大統領が強権姿勢を強め、国を挙げた団結ムードが高まるなか、難民たちはトルコが難民排除の動きを強めないか、事態を注視している。

■「市民の資格ない」「帰れ」

「お前らに市民の資格はない」。最大都市イスタンブールに住むシリア難民の男性（31）は、乗車したタクシー運転手につばをはかれた。7月上旬、エルドアン氏がトルコ国籍を望むシリア難民に「国籍付与のチャンスを与える」と発言した直後のことだ。以来、国籍を明かすのはやめた。

クーデター未遂があった7月15日夜。乗っていたバスが突然止まり、「爆弾がある。すぐ出る」と告げられた。「シリア人を擁護するトルコ政府への抗議行動かと思った」。身の危険を感じ、走って逃げた。反乱が失敗に終わり、男性はほっとした。「成功していれば、我々はトルコから追い出されると思った」

シリアの首都ダマスカスの出身。母国では安全上の問題に加え、家族を養える仕事を得るのは難しく、3年前にトルコに来た。「ここに住み続けるしかない」

イスタンブール在住の別のシリア難民の男性（37）は今月上旬、友人と公園でたばこを吸っている時に、トルコ人の若者らから「シリアに帰れ！」と怒鳴られた。「内戦中の母国には戻れない。欧州連合（EU）とトルコの合意で欧州にも行けない。トルコで暮らすしかない以上、目立たないようにしなければ」（朝日2016.08.21.）

〈⑤違法性を示すもの〉

シリア難民の違法性を示す記事はほとんどなかったが読売新聞で見つけたものを以下に載せる。また、シリア難民をテロと関係で描いていた記事は朝日新聞よりも読売新聞の方が多かった。

シリア難民の男 独でテロ計画か 自宅から爆発物

【ベルリン＝井口馨】独警察当局は8日、爆弾テロを実行する可能性があるとしてドイツ東部ケムニッツに住むシリア人の男（22）の写真を公開し、行方を追っていると発表した。警察が同日、男の居室から数百グラムの爆発物を発見した。独メディアによると、男は昨年、難民として入国し、イスラム過激派組織「イスラム国」と関係があるという。警察は男と面識のある3人の身柄を拘束したが、テロの具体的な計画は不明（読売2016年10月10日）。

英テロ 拘束の少年らは難民 現地報道 イラクとシリアから

【ロンドン＝角谷志保美】ロンドンの地下鉄車両内で15日朝に起きたテロ事件で、英メディアは18日、英警察が身柄を拘束した少年（18）と男（21）がイラクとシリアからの難民だと報じた。ともにロンドン郊外に住む英国人夫妻が里親になっていたとみられる。夫妻の家では、18日も捜査当局による捜索が続いた。

夫妻の家がある地域の地元行政当局者は英PA通信に対し、「（少年は）イラク難民で、15歳でここに来たと承知している。両親はイラクで死んだ」と話した。シリア難民とされる21歳の男については「かつて夫

妻が里親になっていたらしい」と説明した（読売 2017.09.19）。

〈⑥たくましく生きるシリア難民〉

次に、内戦により奪われた夢を実現するなど、たくましく生きるシリア難民の記事を載せる。しかし、このような記事はまだまだ少ない。

シリア難民、たくましく エジプトで生活再建 私塾設立・料理店オープン

140万人を超すシリア難民のうち、エジプトに逃れたのは約6万3千人、難民登録したのはうち約4万7千人だ。その多くは首都カイロ周辺に住む。子どもたちのための私塾ができ、シリア料理のレストランや商店が続々とオープン。内戦が長期化するなか、自力で生活の再建を目指す動きが広がる（朝日2013年05月14日）。

義足のシリア難民 聖火運ぶ

【ローマ=青木佐知子】リオデジャネイロ五輪に向けた聖火リレーが26日、ギリシャの首都アテネ郊外の難民キャンプを通過し、シリア内戦で右足の一部を失った男性が聖火トーチを運んだ。世界各地の難民らを勇気づけようと、国際オリンピック委員会（IOC）が企画した。聖火を運んだのは、シリア出身の水泳選手イブラヒム・フセインさん（27）。2014年、戦火を逃れてトルコからゴムボートでギリシャに渡り、同国で難民申請が認められた。約1500人が暮らす難民キャンプを義足で走ったフセインさんは、「この名誉を与えてくれたギリシャの皆さんに感謝している。難民の人々には、様々なことに挑戦するのは可能だと訴えたい」と語った（読売2016.04.27）。

【フォルサ!】内戦に奪われた夢 実現/リオ・パラリンピック

◇Rio 2016 PARALYMPIC GAMES

◎競泳 イブラヒム・アル・フセイン 27（難民選手団）

シリア出身で、リオ五輪に続いて初結成された「難民選手団」の一人として競泳の自由形（運動機能障害S9）の50メートルと100メートルに出場する。「子供の頃からオリンピック選手になりたかった。少し違う形だけど、夢がかなった」と喜ぶ。

シリア東部デリゾールで育ち、柔道と水泳に明け暮れた。内戦が激化した2012年11月、政府軍の爆撃に巻き込まれ、右足のふくらはぎから下を失った。今も両親ときょうだいが暮らす生まれ故郷は、イスラム過激派組織「イスラム国」の勢力下にある。

翌年、隣国トルコに脱出。動けるようになると、ゴムボートで地中海を渡り、ギリシャにたどりついた。最初は家に閉じこもりがちだったが、出会った医師に義足を提供してもらい、歩行訓練を開始。15年10月、5年ぶりに再び泳ぎ始めた。

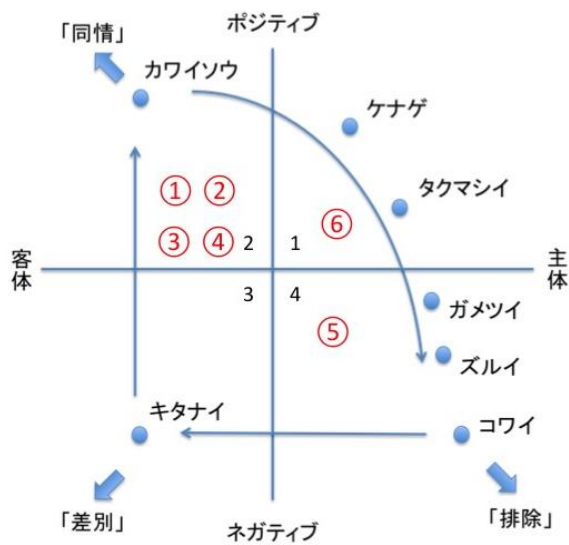
それから1年もたっていない。パラリンピック出場について「幸せすぎて、今でもベッドで涙を流すことがある」と笑う。

国連によると、シリア難民は500万人以上。世界の難民は2100万人以上にのぼる。「難民代表であることを誇りに、ベストを尽くす」と表情を引き締めた（上杉洋司）（朝日2016.09.10）。

3-2-3. シリア難民に関する記事分類の考察

シリア難民の記事は、①「過酷で悲惨な状況を生きる人」として描いているもの、②「支援すべき存在」として描いているもの③「行き場のない姿」を描いたもの④「テロリストの被害者（入国拒否・差別）」として描くもの⑤違法性を示すもの、⑥「たくましく生きるシリア難民」の六つに分類出来た。そして、それぞれのフレームを「図5イメージ枠組みと行動」の図に当てはめるため、それぞれシリア難民が「主体的」「客体的」・「ネガティブ」「ポジティブ」に描かれているのか見ていく。記事数としてはとても少なかったが⑤違法性を示すものは「ネガティブ」であり、それ以外の分類は「ポジティブ」に描かれていた。これも記事数としては少なかったが⑤と⑥「たくましく生きるシリア難民」のみが「主体的」に描かれており、その他の分類は「客体的」であった。整理すると、①②③④は「客体×ポジティブ」、⑤は「主体×ネガティブ」、⑥は「主体×ポジティブ」となる。

【図9】



(出典 図5に筆者加筆)

上の図を見てわかるように「客体×ポジティブ」に位置するフレームが多く、記事数も多かった。また、前項で分析をしたベトナム難民の方が「主体的」に描かれているものが多く、シリア難民の方が「客体的」に描かれているものが多かった。全体的にシリア難民報道は「かわいそう・救済すべき」というイメージを与えるものや「シリア難民をテロや紛争の被害者」として描いていた。それに対して、ベトナム難民はシリア難民報道と比べると違法性や上陸の多さを伝えるもの多かった。これらの違いはベトナム難民が日本に多く上陸しており、近い存在となっていたこと、シリア難民はどこかまだ遠い存在という認識があるからかもしれない。

次に記事検索をして分かったことを述べていく。まず、シリア難民を取り巻く環境は短期間で大きく変わり、それに伴いシリア難民に関する記事内容の移り変わりも激しかった。ただ、日本とシリア難民との関わりや交流について書かれている記事は少なかった。そして、シリア難民に関する報道では非常に写真が多く使われていた。特に、女性や子供の写真が多く見られた。例えば、子供と遊ぶシリア人女性・難民キャンプの様子・シリアの子供達・プレハブ型住宅前で遊ぶ子供達・日本から運んだ服を着せてもらうシリア難民の3歳の女の子・難民キャンプでジャガイモの皮をむくシリア難民の女性と子どもなどである。まだ交流が少なく、地理関係的には遠い国のシリアの難民に対して想像力を働かせ、関心を集めるために、写真は大きな役割を果たしていると考えられる。また、朝日新聞と読売新聞では大まかな記事内容の変遷は同じであったが、朝日新聞の方が記事数が多いこともあり、一貫して小さな話題であっても社会面などでシリア難民に関するニュースを取り上げていた。また、個人の体験談（インタビューベース）など、シリア難民個人に焦点をあてた記事が読売新聞より多かった。それに対して読売新聞はシリア難民を取り巻く環境に合わせた記事の出し方をしている印象を受けた。例えば、トルコでシリア難民の不法入国が増えると、シリア難民の生活の苦しさや日本でシリア難民を想って活動する人々の記事が少なくなった。また、読売新聞は朝日新聞と比較してテロとの繋がりでシリア難民を報道するニュースが多かった。

また新聞を検索する中で、日本のシリア難民受け入れについて新聞社の意見が反映されていると感じるものがあった。両社の持論の差を社説を見て比べてみる。

〈朝日新聞の社説〉

朝日新聞は難民の受け入れについてしっかりとした主張を持っており、難民受け入れに積極的で、日本政府にももの申す姿勢を取っている。

（社説）難民受け入れ 拡大こそ国際貢献の道

母国に帰れば、社会的に苦しめられ、危険が及びかねない。そんな人々を難民と呼ぶ。

日本は、そうした人たちを守る難民条約の加盟国だが、実際に受け入れた人数は極端に少ない。昨年認定は11人だ。

1997年以来の1けたに落ち込んだ前年の6人からわずかの増。難民とは認めないまでも人道上の配慮から在留を認めた110人が別にいるが、それでも年間1万人超や数千人規模を受け入れる北米や欧州の国々に比べてはるかに狭き門だ（朝日2015年04月07日）。

（社説）シリア難民 近隣の国々にも支援を

欧州に押し寄せる難民の波に世界の目が注がれている。欧州連合は16万人の受け入れを決めたが、それは難民全体のほんの一部でしかない。

難民の出身国と近接の国々では、はるかに多くの人々が助けを待ち望んでいる。

欧州に到達した難民たちの問題から、中東を中心にした世界の難民問題の全景へと思いをはせたい。戦乱や迫害から逃れ、生存の道を探る人々への緊急救援に、日本を含め国際社会も本腰を入れるべきだ。

日本政府は、シリア難民の若者を留学生として受け入れるよう検討を始めた。だが、その規模は数十人程度とみられ、国際貢献というにはあまりに規模が小さすぎる（朝日2015年09月27日）。

〈読売新聞の社説〉

上の朝日新聞と同じ時期の社説であるが、読売新聞は朝日新聞より日本の難民政策に積極性を感じない。

[社説] 難民大量流入 欧州の支援策は奏功するのか

中東やアフリカなどから難民や不法移民が流入するスピードを抑え、秩序だった難民支援の体制を構築できるのか。欧州連合（EU）の協調の真価が試されよう。

EUにとっての難題は、欧州入りした難民の受け入れについて、加盟国がどう分担するかだ。

首脳会議に先立って開催された法相・内相理事会では、ギリシャとイタリアが抱える難民12万人を2年間で、加盟国が共同で受け入れることを決めた。

ハンガリーやスロバキアなど東欧4か国が反対し、異例の多数決で決着せざるを得なかった。

欧州での難民申請者は今年、100万人を超えると予測されている。今回の分担決定は焼け石に水ではないか。持続的な受け入れ体制を作ることが急務である（読売2015.09.28）。

以上の記事は抜粋で、この記事の最後に「日本は、シリア周辺国の難民に対する食料供与や上水道整備など支援に力を入れ、11億ドル（約1300億円）以上を抛出してきた。人道危機の深刻化を受け、一層の貢献へ知恵を絞る時である。」と言っているものどどこか遠い国の出来事、欧州に責任を押し付けている感じがする。

4. 主要全国紙の在日外国人報道

第二章では主要全国新聞が「ベトナム難民」「シリア難民」をどのように描いているのかを見てきた。そして、次にこの章では「難民」に限らず、「在日外国人」をどのように見ているのか、メディアはどの様に扱ってきたのかを見ていく。

外国人のカテゴリーの一つとして、「女性労働者」、当時の言葉でいう「ジャパゆきさん」（奥村2003:94）報道を見ていく。「ジャパゆきさん」とは差別用語として今は使われなくなったが、日本へ出稼ぎに来る外国人女性の呼称のことである。1970年代後半から急増し、社会問題ともなった「ジャパゆきさん」の描かれ方を見ることで、難民の定住や在日外国人の生活に影響を与える日本国民の持つ「外国人」イメージをつかむヒントになるだろう。そして1970年代～1980年代が中心の「ジャパゆきさん」報道に対して、より近代の報道を見ていくため「在日コリアン」報道も研究していく。

4-1. 「ジャパゆきさん」報道

4-1-1. 「ジャパゆきさん」とは

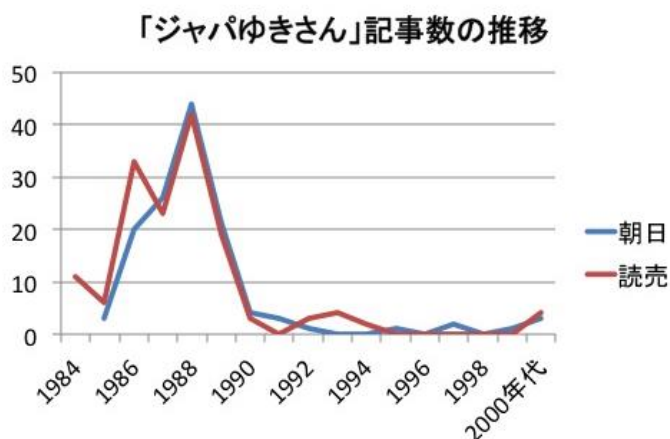
1980年代程までは、日本の男性が慰安旅行などの名目で海外に風俗・買春ツアーに行く慣行があったが、

1973年の石油ショックを糸口として日本経済は揺らぎ始め、そうした海外への旅行を制限し始めた（山崎 2012:420-421）。こうした事態に対して、アジアの国々の女性達の間には、今度は自分たちが日本に渡り、そこで稼ごうではないか、という動きが強くなる（山崎 2012:420-421）。その結果、日本へ赴く女性が多くなり、「ジャパゆきさん」の出現という事態に至った（山崎 2012:420-421）。明治維新このかた一貫して「日本女性」の「唐行き」であった現実が、「東南アジア女性」の「ジャパン行き」に転じた（山崎 2012:421）。「唐行き」時代から「ジャパ行き」時代に移ったが、日本の国家は当然ながらこうした女性たちの流入にあまり好意を示さず、アジア諸国の女性達の日本渡航には、ずいぶんと厳しい制限を設けた（山崎 2012:421）。アジア諸国の女性の日本への入国は、日本人男性との正式な「結婚」を除いては、「留学」「観光旅行」および「芸能者」としての興行目的のほかは許可しなかったのだ（山崎 2012:421）。しかも、観光・芸能興行にも強い条件がついており、観光目的の場合には入国時に最低数百ドルの金子を持っていること、芸能者としての入国には芸能営業許可証の提示が不可欠であった（山崎 2012:422）。貧しさゆえに日本に出稼ぎに来る女性がこのような資金や許可証を持っているはずがなかった（山崎 2012:422）。それゆえ、「ジャパゆきさん業者」という日本側の「闇の商人」が暗躍した。「ジャパゆきさん業者」は日本への出稼ぎを望むが、入国に必要な資金が足りない者に、日本ならいかに容易に高収入を手にし得るかという話しをして、「入国＝見せ金」を貸し与えた（山崎 2012:422）。しかし、こうして入国に成功した女性たちを待っていたのは、「ジャパゆきさん業者」からの借金の取り立てであった。日本へ出稼ぎに来る女性の中には「売春」を承知の上の人もいただろうが、そうではなく真なる仕事で働きたいと願うものもいただろう。しかし、こうした借金の取り立てのため、身を売らざるを得ない女性も多かった。

4-1-2. 「ジャパゆきさん」に関する記事分類

ここでも前章と同じように「聞蔵IIビジュアル」の1985年～、「ヨミダス歴史館」の1986年～の記事を対象とした。「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞の「ヨミダス歴史館」というデータベースを利用した。そして、「ジャパゆきさん」というワードで検索した結果、毎日新聞は64件、読売新聞は150件ヒットした（2016年12月31日現在）。

【図10】



その記事のタイトルや内容から、「ジャパゆきさん報道」を4つに分類できる。①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」または「被害者」として描くもの②「不法就労」を強調するもの③「ずるい」存在として捉えているもの④国際問題の一つ・国際関係の問題に結びつけているものの4つである。以下それぞれについて見ていく。

〈①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」または「被害者」〉

「ジャパゆきさん」を「低賃金で働かざるを得ないかわいそうな存在」、そして「悪質ブローカー達の被害者」として描いている記事がある。

六日町 「雪国」にも国際化の波

この町にやって来る“ジャパゆきさん”は年間三十人とも四十人ともいわれる。出入国管理法違反で逮捕される者も多く、去年は四人が六日町署に捕まった。滞在期間をすぎても働かされたうえ、暴力団に金をすっかりまき上げられたフィリピン女性は帰るあてもなく、転々としたあげく、新幹線に乗り込んでこの町にやって来た（朝日1985年01月05日）。

アリの国へ フィリピン

欧米各国、中近東や日本の男性が「花嫁」や愛人を募集する「メール・オーダー・ブライド」の広告がフィリピンの新聞をにぎわしている。観光ビザで日本に接客のため送り込まれる「ジャパゆきさん」の数も年々膨らむ一方だ（朝日1986年01月08日）。

『男じゃばゆき 給料ピンはね、倉庫にすし詰め 愛知で比の12人』

14日、名古屋入国管理局は観光目的で入国しながら愛知県岩倉市内の建築会社で働いていたフィリピン人男性12人を出入国管理法違反の疑いで摘発、会社側からも同容疑で事情を聴いた。フィリピン人は高給を約束されていたが、実際には賃金のかなりの部分をピンはねされ、出稼ぎの悲哀を味わっていた（朝日1986年07月15日）。

タイ航空620便は“ジャパゆき便” 疑惑の組員は送り役？

大阪空港国際線待合ロビーでは、出迎えの男たちが顔も知らないフィリピン女性らを探す光景が、今でも連日のように繰り返されている。胸に紫色の花をさすなど「目印」を持っている女性たちには、すぐ男が近づき、パスポートをバッグに入れ、ロビーから連れ去った（朝日1986年11月04日）。

この記事からは、フィリピン女性が「もの」の様に扱われてしまっていたことも伺える。

『ジャパゆきさん、タコ部屋暮らし 大阪で比の30人を保護』

スナックやキャバレーなどで働くフィリピンからの出稼ぎ女性、いわゆる「ジャパゆきさん」が、大阪府内のマンションなどに集団で住んでいるとの情報をつかみ、大阪市南区難波千日前、マンション「ナンバタウンハウス」など7カ所を一斉に搜索、男性1人を含むフィリピン人計30人を保護した。6畳2間と6畳大の台所に万年床を敷きつめ、トマトやソーセージなどの質素な食事をとっていたらしく、保安1課は、女性たちがここを根城にミナミのスナックなどへ働きに出ていた、とみている（朝日1986年11月18日）。

「ジャパゆきさん」雇い派遣業 芸能プロの経営者を逮捕

フィリピンからの「ジャパゆきさん」を雇い、東京都内のスナックやバーに派遣し働かせていた芸能プロダクション経営者(A)が21日までに、警視庁保安1課と浅草署に労働者派遣業法違反容疑で逮捕された。Aは女性たちを4畳半と6畳だけのアパートに住まわせ、派遣先の店にはマイクロバスで送迎していた（朝日1986年11月21日）。

『「ジャパゆき」悲し、改ざんパスポート』

改ざんパスポートを利用するのは、ほとんどがいわゆる「ジャパゆきさん」。その改ざんパスポートにニセの書類や、髪形を変えた顔写真を添えて申請、見破られても見破られても繰り返し、8回もトライした女性もいたほどだ（朝日1986年11月29日）。

フィリピン女性労働者の不法就労や改ざんパスポートが1980年代に問題になったが、この件でも朝日新聞は、タイトルに「悲し」という言葉を入れることにより、「かわいそう」というイメージを植え付けようとしている。しかし、記事の中身は改ざんを見破られても何回もトライする女性が描かれており、タイトルとの不一致が生じている（奥村2003:100）。ここに「ジャパゆきさん」＝「かわいそう」という朝日新聞のフレームが見られる。

「フィリピン女性の売買反対運動」 タカルドン事務局長に聞く

“ジャパゆきさん”と呼ばれる出稼ぎアジア女性が、激増し続けている。日本への違法出入国外国人が昨年、初めて1万人を超えたが、そのうち7000人がジャパゆきさんと見られ、さらにその7割に当たる5000人がフィリピン女性だ。貧困ゆえに来日して、全国各地の性産業で働いているが、賃金不払い、売春強要、暴力といった人権侵害を受けて、東京の「女性の家HELP」やカトリック団体などに救いを求める女性も増える一方、フィリピーナ（フィリピン女性）の売買に反対する女性組織「STOP」のミルナ・タカルドン事務

局長（46）＝「善き牧者女子修道会」修道女＝が来日、フィリピン女性の人権を守るために日本政府も国民も協力を、と強く訴えている（朝日1987年06月16日）。

航空券の手配を法務省が総点検 ジャパゆきさんの帰国運賃格差

今後は、料金を統一的なものに改めるとともに、出入り業者選定もガラス張りにして、ジャパゆきさんを食い物にする悪質な業者を締め出す方針だ（朝日1987年08月30日）。

この記事においても、弱い立場である「ジャパゆきさん」を救済すべき存在であると描いている。

静岡のアパートで、ジャパゆきさん孤独の病死

同署が調べたところ、死後10日以上たっていた。ひどくやせており、同署は栄養失調による心不全とみている。マリアさんは60年6月に観光ビザで入国、各地のスナックなどを転々とし、仕送りを続けていた、いわゆるジャパゆきさんだった。持っていた金は1万円札1枚と100円札1枚（朝日1988年04月20日）。

これらの「かわいそう」というイメージを持つ記事は1985、6年に多く見られ、1986年半ばから徐々に少なくなっていく。そこで次に「かわいそう」というイメージから離れた、ジャパゆきさんの不法滞在や不法就労について強調された記事を見ていく。

〈②「不法就労」を強調するもの〉

「ジャパゆきさん」の不法就労は1986年代から問題視されていた。

1000人以上を国外退去に 出稼ぎ外人摘発期間

観光を装って入国し不法に働く出稼ぎ外国人が激増しているため、法務省入国管理局は、11月を「不法就労対策月間」として、違反者の摘発を全国規模で実施、7日付で結果を発表した。特に10日間の摘発努力期間中、国外退去の強制手続きをとった違反者は1000人を超し、昨年1年間の違反者7200人の7分の1に達した。うち3人に1人は、ブローカーや暴力団員などから働き口をあっせんされており、女性の大半はホステスなどいわゆる「ジャパゆきさん」（朝日1986年12月08日）

しかし、この記事ではブローカーや暴力団員の存在も示されるなど、「ジャパゆきさん」自身の違法性はそこまで強調されていない。

しかし、下の記事にもあるように女性に加え、アジア諸国から来た男性の不法就労が問題になり、1987年には以前よりも「ジャパゆきさんの違法性」を主張する記事が目立つようになった。

法務省が6月に実施した不法就労している外国人の調査・摘発で、「ジャパゆきさん」と呼ばれる女性に加え、アジア諸国から来た男性が在留許可条件に違反して働くケースが急増していることが明らかとなった（朝日1987年07月26日）。

62年版警察白書 外人犯10年で6倍 国外で邦人悪質犯増加

警察庁は31日、「国際化の進展に対応する警察活動」を主題にした62年版警察白書を公表した。昨年の警察活動をまとめたもので、国内での外国人の犯罪がこの10年で6倍に増えたほか、犯行後海外に逃亡したり、保険金目当てに被害者を海外に連れ出して殺すなど日本人の国外犯罪が増え、悪質化が目立つという。観光や就学名目で入国して、風俗営業で働く、いわゆる「ジャパゆきさん」、建設、製造業の不熟練単純労働者として働く出稼ぎ外国人計9095人が資格外活動や不法残留で強制退去させられた（朝日1987年07月31日）。

日本に観光客として入国したまま居座り不法就労する、いわゆるジャパゆきさんと呼ばれたりする外国人が増えているが、そのうちフィリピン人の占める割合が年を追って高まっている。法務省入国管理局によると、59年は62.4%だったのが、61年には77.4%にまで増えた（朝日1987年08月09日）。

合法的出稼ぎ外人に「困った」

観光旅行などの名目で来日しながら就労許可を受けず飲食店でホステスをしたり、町工場などで出稼ぎ労働をしている「ジャパゆきさん」「男ジャパゆきさん」が最近急増し、法務省が取り締まり強化に乗り出しているが、合法的に出稼ぎをしている外国人も増え始め「不法就労者を締め出す根拠が揺らぎかねない」と入国管理担当者が頭を痛めている（朝日1987年08月13日）。

不法就労締め出し強化 入管法改正案を閣議決定

政府は28日の閣議で、出入国管理・難民認定法（入管法）改正案を決めた。日本の「国際化」や「円高」に伴い日本での就労を希望する外国人のうち、一定の技術、知識を持つ者については受け入れやすいように仕組みを整備するとともに、いわゆる「ジャパゆきさん」のような不法就労者をできるだけ締め出すのがねらいだ（朝日1989年03月28日）。

③「ずるい」存在として捉えているもの

次に「かわいそう」「被害者」というイメージからかけ離れた「ジャパゆきさん」の印象を紹介する。

〔追跡〕 東南アジア女性、出稼ぎ売春 “じゃぱゆきさん” また来るワ

観光ビザで入国して各地の性風俗産業を稼ぎ場にする通称「じゃぱゆきさん」。不法行為を働いて昨年一年間に強制送還された不良外国人約四千人の大半を彼女たちが占めたが、その一人のフィリピン女性は「偽造パスポートでまた帰ってくる」とあっけらかん。「女性の供給ルートはつぶれっこない。みんなが喜ぶことをして何が悪いか」とうそぶく業者もいて、はしなくも盛り場売春の一端が浮かび上がった（読売 1984. 03. 29）。

ニセ留学生急増 就学ビザの“じゃぱゆきさん” 「勉強」名ばかり 出稼ぎ

入管管理局の調べで、東南アジアなどの発展途上国から、日本学校への入学と偽り、就学ビザで経済大国ニッポンへもぐり込んでくる出稼ぎ労働者が急増している皮肉な結果が明らかになった。観光ビザによる“じゃぱゆきさん”に続く偽装入学問題は国際化時代の難しい一面を浮き彫りにしているようだ（読売 1986. 07. 31）。

“金満ニッポン” でひと稼ぎ

東南アジアの人々にとって、日本は格好の出稼ぎ場だ。このところ、中東石油国の低迷で、出稼ぎの場を失った「男じゃぱゆきさん」が、アノ手コノ手で入国、建設現場などで働いている（読売 1987. 02. 01）。

行きは1人、帰りは2人 ジャパゆきさん、笑顔で退去

「赤ちゃんは生後3カ月よ」と付き添いの入国警備官の問いかけに陽気に答える女性。不法残留などによる強制送還のため、8日午後、成田空港発のマニラ、バンコク経由カラチ行きパキスタン航空761便に搭乗したフィリピン、パキスタンなどからの18人のうち、フィリピン女性2人は日本で生まれた赤ちゃんを抱いていた。数年前までは、出産予定日近くまでホステスなどをして働き、入管当局に自主申告をして大きなおなかで退去する例が多かったことからすると、随分な様変わりだ。土産のラジカセ、犬のぬいぐるみなどを機内に持ち込んでいるが、以前よりは荷物が少ない。「事前に、国際宅配便などで送り出しているようです。お金も、航空券用のほかは送金済みがほとんど。用心のためでしょう」と、入管職員。国警備官の調べには「二度としません」と神妙だったが、犯罪の意識がないのか、家族に会えるためか、多くの人が笑顔で機内に消えた（朝日1988年03月09日）。

④社会問題の一つ・国際関係の問題に結びつけているもの

「ジャパゆきさん」の問題を社会問題の一つと捉える、または国家間の関係性を述べる際に論じられている記事を紹介する。

東南アジアからの出稼ぎ「ジャパゆきさん」といえば、思い浮かべるのはネオン街の夜を彩る女性たちだが、最近、観光目的の短期滞在ビザで日本に来て働くアジア人男性が急増している。肉体労働が毛ざらいされる風潮の中、賃金の安い外国人労働者に目が向けられ始めたためといわれ、先ごろ、名古屋入国管理局が、愛知県内の建築会社で働いていたフィリピン人12人を摘発・強制送還させるなど各地で不法滞在者の摘発・送還が続いている。このまま増え続ければ、西独などヨーロッパの一部で起きているように、外国人労働者の存在が社会問題化する恐れもある（朝日1986年07月26日）。

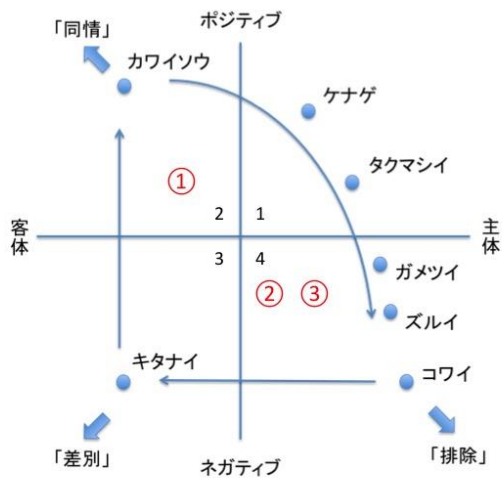
アキノ訪日と日比新時代（社説）

ピストルや手投げ弾の密輸入、ジャパゆきさんから、過疎の農村への花嫁さんまで、わが国とフィリピンとの かわりは、良きにつけあしきにつけ深まってきている（朝日1986年11月08日）。

4-1-3. 「ジャパゆきさん」に関する記事分類に対する考察

「ジャパゆきさん」報道は①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」または「被害者」として描くもの②「不法就労」を強調するもの③「ずるい」存在として捉えているもの④国際問題の一つ・国際関係の問題に結びつけているもの四つに分けられ、これを「図5 イメージ枠組みと行動」の図に当てはめると、以下のようになる。

【図 11】



(出典 図5に筆者加筆)

「④国際問題の一つ・国際関係の問題に結びつけているもの」以外は表に当てはめることが出来き、①「救済すべき存在またはかわいそうな存在」は「客体×ポジティブ」、②「不法就労」を強調するものと③「ずるい」存在として捉えているものは「主体×ネガティブ」であった。記事数としては②が一番多く、図を見て分かるように「客体×ネガティブ」な第三象限にあてはまる記事は新聞報道において見つからなかったが、週刊誌でのジャパゆきさんをエイズと結びつけ差別するのはここにあたるだろう。週刊誌においてジャパゆきさんは「性的客体」としてのイメージが強く植え付けられており、中でも強い印象が加わったのが「ジャパゆき＝

エイズ」報道である（奥村 2003:97）。「百人と“接触”・・・ゾッとする」（サンデー毎日：1986年11月23日）や「滞在していたアパートのまえに山のようなゴミがそのままなのが『何よりも不気味』である」「AIDS”じゃぱゆきさん”」週刊プレイボーイ：1986年11月25日）とあるように、これらは接触がためられる「キタナイ」客体としてのイメージを喚起させていた（奥村 2003:97-98）。

そして、「ベトナム難民」報道において、ベトナム難民の活躍を伝える記事が沢山存在していたのに対して「ジャパゆきさん」の活躍を伝えた記事は見つからなかった。これは、「ジャパゆきさん」という言葉が差別用語として近年新聞であまり使われなくなり、「ベトナム難民」の記事数より少ないことも関係しているだろう。そして「ジャパゆきさん」という言葉は東南アジアからの出稼ぎ女性をマスコミが揶揄的に使っているという批判もあるように、そもそもネガティブなイメージを含んでしまっていると考えられる。

朝日新聞においては、奥村が言うように、ジャパゆきさん報道は「カワイソウ」というイメージを植え付けるものが多かった。しかし、「カワイソウ」だけでなく「ズルサ」も持っている存在だと分かった場合、朝日新聞は週刊誌のように書けないため、発見してしまった「主体」を切り捨て「カワイソウ」な「客体」という位置に閉じ込めようとするのである。それが、朝日新聞の「ジャパゆきさん悲し」という記事に見られたタイトルと中身の矛盾にもみることが出来る。それに対して、読売新聞は「カワイソウ」イメージだけではなく、それと対照的な記事もあった。特に③の分類に含まれる「[追跡] 東南ア女性、出稼ぎ売春 “じゃぱゆきさん” また来るワ」や「ニセ留学生急増 就学ビザの“じゃぱゆきさん” 「勉強」名ばかり 出稼ぎ」などの読売新聞の記事は朝日新聞の「カワイソウ」イメージの記事とは対照的であった。またここでも、読売新聞の方が淡々と事実を述べているものが多く、分類に当てはまるものが少なかった。そして、「ベトナム難民」報道と比べても「ジャパゆきさん」報道は「かわいそう」イメージの記事が多かった。

このように「ジャパゆきさん」は「悪質ブローカー達の被害者」または「不法就労をする犯罪者」と大きく二つの極端な描かれ方をしていた。後ほど説明するが「在日コリアン」「ベトナム難民」「シリア難民」報道と比べて「ジャパゆきさん」報道は「ジャパゆきさん」自身の声を伝える記事はほとんどなく、第一象限に位置する記事が存在しなかった。

4-2. 在日コリアン報道

4-2-1. 在日コリアン

次に「在日コリアン」報道について見ていく。本論文において「在日コリアン」という言葉は、「特別永住資格をもつ朝鮮半島出身者とその子孫、広義には帰化者を含む」という意味で用いる。

在日コリアンの生き方を大きく分けると次の三つに分けることが出来る。

- ① 本名を持ち続けてこのまま日本で生活していく
- ② 日本国籍を取得して生活していく
- ③ 本国に帰国する

現在③を選択する在日コリアンは少なくなってきたおり、①②を選択する人が増えている。さらに日本で生活が長くなっていくと、自然的に日本国籍を取得する生き方を選択する在日コリアンが増えていくだろう。100年以上の長きに渡り日本に居住し、これからも日本社会で生きていく在日コリアンであるが、就職や年金など制度上の差別は未だに残っており、参政権問題やヘイトスピーチ問題など、在日コリアンを取り巻く環境は未だに不安定である。在日コリアンの問題を放置したまま、日本で多文化共生社会を実現していくことは不可能だと考える。次の項では、近年（2000年以降）の新聞報道が在日コリアンをどのように描いているのかを見ていく。

4-2-2. 在日コリアンに関する記事分類

ここでも「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞の「ヨミダス歴史館」というデータベースを利用して、2000年以降という条件付きのもと、「在日コリアン」というワードで検索した結果、朝日新聞は2079件、読売新聞は612件ヒットした。（2017年12月19日現在）そして年代別の記事数の推移を下のグラフにまとめた。「ベトナム難民」「シリア難民」「ジャパゆきさん」報道はグラフの形が朝日新聞・読売新聞ともにほぼ同型であったが、「在日コリアン」報道では二社間で記事数の変化の仕方がバラバラだった。また、目立って記事数の多い年もなかった。

【図12】



朝日新聞、読売新聞双方に共通して記事内容になっていたものはおよそ以下である。

- ・ 「ワンコリア」や民団と総連の和解やしがらみについて
- ・ 日韓ワールドカップについて
- ・ 在日コリアンが開催するイベントや在日コリアンに関わる映画祭や美術展開催などの記事
- ・ 介護問題（異文化の壁により日本の介護に満足出来ないことが多く、在日高齢者の福祉を向上させることが大きな課題となっている等の内容）
- ・ 金正日総書記 死去
- ・ 北朝鮮のミサイル問題
- ・ 北朝鮮の拉致問題

- ・ ヘイトスピーチについて
- ・ 選挙権について
- ・ 差別への訴え
- ・ 国籍問題

2000年～2002年にかけて日韓ワールドカップやサッカーを通じて在日コリアンと日本人が交流を深めているという内容の記事が多かった。金正日総書記死去の記事は2011年、ヘイトスピーチの記事は2013年から多く見られるようになる。

次にこれらの記事の中で在日コリアンがどのような存在として描かれているのかを見た結果、六つに分類することが出来た。在日コリアンを①「共に生きていく・交流を深める存在」として描いているもの、②「共生すべき」存在として描くもの（日本人が主体となり、制度変更や支援を進める記事など）、③「日韓の架け橋・南北の交流を促進する存在」として描くもの、④「二国間の関係の中に挟まれ、苦しむ」存在として描かれているもの、⑤「将来性のある・活躍する存在（主体的）」として描くもの、⑥「差別と闘う姿」を描くものの六つである。以下、①から順に分類ごとに当てはまる記事の例を紹介していく。

①「共に生きていく・交流を深める存在」として描くもの

2002年に日韓共催サッカー・ワールドカップが開催されるためか、朝日新聞においては2000年から民族間の交流の記事や共生の必要性を描く記事が多い。読売新聞においても2002年からサッカーに関する記事や共生に関する記事が増えた。またサッカー関係の記事では在日コリアンのサッカー選手が日韓の架け橋になる、あるいはなりたいという内容が多かった。

「反目」から「共生」へ

W杯日韓共催の年が明けた。

かつて、朝鮮民族にとってのサッカーは、植民地支配下で誇りを取り戻すための「手段」だった。それだけに、日韓戦は長いこと、純粋なスポーツを超えた「因縁の対決」の舞台だった。

しかし、時代は変わりつつある。「反目」から「共生」へ。日本は韓国にかなわないというサッカー神話が崩れるのと重なり合うように、在日コリアン、とくに日本で生まれ育った三世の若者たちの意識は緩やかに、軽やかになったように見える（朝日2002.1.14）。

W杯後も深く理解しあおう きょうAPUで日韓学生ら討論会／大分

W杯で大分での最後の試合がある16日、別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）で、学生が「日韓ガチンコ討論会」を開く。在日コリアンや日韓の学生でつくるサークルが、「共催から始まる新しい日韓関係を語ろう」と企画した。学生たちは「共催をサッカーだけで終わらせるな」と、両国の未来を語り合う。

討論会を企画したのは、サークル「こここりあ」。メンバーは日韓、在日コリアンの学生ら約20人。テーマは「キムチ、食事作法、集団性など普段感じているあれこれ」「歴史認識」「若い世代の自分たちができることは何か」の三つ。メンバーが推薦した日韓の学生が5人ずつにわかれ、意見を交わす(朝日2002.6.16)。

俺たち仲間、反戦ロック 在日コリアンと日本人、バンドで共鳴

「在日ロック」にこだわってきた朝鮮学校出身の在日コリアンたちが今、日本人とバンドを組んで反戦を訴えている。核実験の強行を巡って日朝関係が緊迫するなか、「なぜ争いはなくなるのか」と問いかける(朝日2013.02.08)。

(②「共生すべき」存在として描くもの(日本人が主体となり、制度変更や支援を進める記事など)

在日コリアンに関する記事では、地方自治体やNPOが在日コリアンの住みやすい社会のために講演会を開くなど、支援を進める記事も多く見られた。中でも在日コリアン高齢者に対する支援や企画の記事が多かった。

在日コリアンの高齢者介護に、専門学校で韓国語講座 川崎/神奈川

川崎市内に多く住む在日韓国・朝鮮人のお年寄りの介護に力を発揮しようと、同市多摩区のYMCA福祉専門学校で韓国語講座が開かれている。二月には韓国への研修旅行もあり、春には韓国語の分かる介護福祉士が誕生する予定だ。

市内には約八千人の在日韓国・朝鮮人がいるという。日本の植民地時代に移り住んできた一世は高齢化が進んでいる。お年寄りの多くは日本語を話せるが、高齢になって日本語を忘れたり、不自由になったりする人もいるという。

同専門学校は、卒業生が市内の施設などで働く場合もあることから、地域に根ざした福祉教育をしようと、昨年十月に韓国語講座を設けた。今後は、市内に住む在日のお年寄りたちとの交流を進める考えだ(朝日2000.01.15)。

在日のお年寄りに韓国・朝鮮料理を 八尾の福祉施設が教室 /大阪

在日韓国・朝鮮人のお年寄りの通所による福祉サービスなどを行っている八尾市竹濑西五丁目の民間福祉施設「在日コリアン高齢者集いの家 八尾サンボラム」が二十八日、同市旭ヶ丘五丁目の市生涯学習センターで、韓国・朝鮮の民族料理教室を催した。市内の特別養護老人ホームなどの調理師や栄養士ら十七人が参加した＝写真。

民族の習慣を色濃くもっている在日一世のお年寄りが施設や在宅での介護サービスになじめず、閉じこもりがちな原因のひとつに、韓国・朝鮮の民族料理をつくれる施設の職員やホームヘルパーが少ないことが挙げられているため、初めて企画した。

同日は八尾サンポラムの徐玉子（ソウオクチャ）代表らスタッフ六人が講師になり、野菜のあえ物であるナムルや雑煮にあたるトックスープ、カレイの煮付けをつくった。徐さんは「在日一世のコリアンから『昔なじんだ料理が食べたい』との声を聞く。在宅サービスでも民族料理の食事を出すことが一番喜ばれる。食べることが健康や生きがいにつながる」と話していた（朝日2000.11.30）。

③「日韓の架け橋・南北の交流を促進する存在」として描くもの

日本という国で国籍の違いを乗り越え、祖国の南北統一を願い、さらに日本人との交流も進展させたいとする在日コリアン達の記事も見られた。これらの記事ではキムチやチヂミ、朝鮮民謡や韓国のロックバンドの演奏で交流を深めるなどコリアン文化が伺えるものが多かった。

1000人が交流 朝鮮総連系・民団系、初の催し共催 / 神奈川

「マンセー（万歳）」——。国籍の違いを乗り越えて集まった数百人の人たちの声は、ひとつになって響いた。分断が続く朝鮮半島の二つの国の間で、将来の統一を視野に入れた共同宣言が六月に調印されたことを祝う催しが二十六日夕、川崎市川崎区の市立桜本小学校校庭であった。在日コリアンの人たちが開いた「川崎同胞ハナ（ひとつの心）フェスティバル」。集まった千人前後が、一緒に朝鮮半島の料理を楽しんだり伝統音楽を聴いたりして楽しんだ。

在日本大韓国民団傘下の川崎韓国商工会議所と、在日本朝鮮人総連合会傘下の在日本朝鮮人川崎商工会が、初めて共同で催した。朝鮮総連系の組織と民団系の組織が手を結んだ試みは、まだ全国でも珍しい。

校庭に設けられたステージに上がった朝鮮人商工会の車栄鎬（チャヨンホ）会長は、「南北首脳会談で統一への列車が発車したことを実感した。川崎から在日同胞の『三十八度線』をなくし、日本の人々とも、もっと仲よくしていきましょう。」韓国商議所の鄭在洙（ジョンチェス）会長も、「私たちも同じ川崎の住民として、地元経済の活性化などに努力します。手と手をとりあって暮らしやすいまちづくりに頑張っていきましょう」と呼びかけた。

共同宣言への支持と地元での交流促進などを盛り込んだ「川崎宣言」を二人の会長と一緒に読み上げると、会場の全員で「マンセー」を三唱。チヂミやキムチなどを味わいながら、朝鮮民謡や韓国のロックバンドの演奏が続き、日が落ちてからもしばらく熱気はおさまらなかった（朝日2000.8.27）。

統一願いパレード 生野区の商店街でワンコリアフェスティバル/大阪

朝鮮半島の平和的統一を願う「ワンコリアフェスティバル・イン・コリアタウン」が五日、生野区の御幸通商店街周辺で開かれた。在日韓国、朝鮮人らが朝鮮半島を描いた統一旗を掲げ、民族楽器を打ち鳴らしながら商店街をパレード。韓国料理の屋台約四十店が並んだほか、韓国系、北朝鮮系、日本の少年サッカーチームの親善試合も行われ、会場は和やかな雰囲気包まれていた。

同フェスティバルは、大阪の在日コリアンらが「日本の在日社会から統一へのうねりを作り出そう」と実行

委員会を作って始め、十六回目。今年は、六月の南北首脳会談など一連の和解ムードをさらに盛り上げようと、同商店街にシドニー五輪の合同入場行進でも使われた統一旗を五十枚用意した。

同フェスティバル実行委員長の鄭甲寿（チョンカプス）さん（46）は「長くフェスティバルで訴えてきた願いが、少しずつ現実となろうとしている。南北融和だけでなく、在日コリアンと日本人との共生がさらに進展すればうれしい」と笑顔で話していた（読売 2000. 11. 06）。

電波で届け融和の歌 広島ラジオ、在日3世らが番組 【大阪】

広島市のコミュニティーラジオ局で、在日コリアンの若者が国籍や立場の違いを超えて番組づくりに取り組んでいる。昨年6月の南北朝鮮首脳会談を機に企画され、4月から韓国・朝鮮の料理や音楽、民俗文化を盛り込んだ放送が始まった。「融和」を電波に乗せていこうと意気込んでいる。

番組のパーソナリティーを務めるのは、李和枝（リファジ）さん（27）＝写真（右から2人目）。朝鮮大（東京）を卒業した在日3世。「これからの世代では在日社会の分断を完全になくしたい。南北、日朝、日韓関係の進展のためにも、番組を聴いた人たちを巻き込んで輪を広げていきたい」と話す。

アシスタントは、韓国籍と日本人の女性が1人ずつ。ボランティアとして、韓国・朝鮮籍の若者5人が参加するほか、広島朝鮮初中高級学校の教員もレギュラーゲストとして加わる。

番組では朝鮮半島の文化や伝統、風俗、ニュース、料理の作り方のほか、スタッフの韓国訪問記などを紹介。音楽は、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の歌や韓国のポップスなどを流す。放送は日本語だが、今後は少しずつ韓国・朝鮮語もまじえていく（朝日2001年05月07日）。

「今こそ相互理解を」 北朝鮮拉致で在日コリアンが祭り /兵庫

県内に住む在日韓国・朝鮮人たちが祖国の統一実現をアピールする祭り「第6回統一マダン・神戸」が13日、神戸市長田区のJR新長田駅前広場であった。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による拉致事件の衝撃が広がる中で、祭りの実行委員会のメンバーは、集まった市民ら約5千人に、「今こそ両国や日本人たちがお互いに理解することが必要だ」と呼びかけた。

「マダン」は朝鮮語で「広場」の意味で、神戸での祭りは97年から催されている。今年は拉致事件の衝撃から、開催の是非をめぐって実行委内で議論もあった。だが、「こういう時だからこそ地道な活動を続けるべきだ」と予定通り開いた。

崔孝行（チェヒョヘン）実行委員長は「（日朝関係の改善を）政府間交渉だけに任せるのではなく、隣に住んでいる在日の人たちの文化や思いを知り、平和と統一を考える一歩にしてほしい」と話していた（朝日 2002. 10. 14）。

コリアンタウン魅力発信 生野の3商店街 ホームページを25日に開設/大阪

大阪市生野区の「コリアタウン」にある三商店街が、ホームページ（HP）「生野コリアタウン」を二十五日に開設する。在日コリアンと日本人の若手店主らが、異文化が融合する街の魅力を紹介、「南北や民族の分け隔てなく情報を交換できるマダン（広場）に」と意気込んでいる。

御幸通、御幸通中央、御幸通東の各商店街では、東西約四百五十メートルの通りにキムチや民族衣装の店など約百二十店が軒を連ね、六割が在日コリアン経営。

昨年の日韓共催サッカー・ワールドカップ、韓国対ドイツ戦で、商店街の公園に大型スクリーンを出して観戦会を開いた際、南北の在日一世の高齢者、日本人も集まり、声を合わせて応援した。「この街でこそ、対立の歴史や世代間のギャップを超えられる」と、在日二世のキムチ店主李容柱（リヨンジュ）さん（41）が呼びかけ、二十一四十歳代の若手店主らが「コリアタウン推進委員会」を結成。今年七月から、大阪市の助成も得てHPの開設準備を進めてきた（読売2003.12.22）。

キムチ・運動会で交流 韓国の子どもら11人、朝鮮学校訪問／福岡

福岡朝鮮初中級学校（福岡市東区和白5丁目）を21日、韓国の子どもら11人が訪問した。同校で学ぶ在日コリアンの子どもたちは、日ごろ勉強している朝鮮語でおしゃべりしたり、キムチやピビンパづくりを一緒に楽しんだり、ミニ運動会で汗を流したりして歓迎。「僕たちは同じ言葉を話し、同じ歌を歌える同じ民族なんだ」と共感を深め合った（朝日2003.02.22）。

〈④「二国間関係の中に挟まれ、苦しむ」存在として描かれているもの〉

北朝鮮の拉致問題や核実験問題に関する記事では、在日コリアンのショックや不安を描いている記事が多かった。それらの記事は朝日新聞・読売新聞共に、拉致被害者や被爆者の憤りとセットで在日コリアンの戸惑いが描かれていた（拉致被害者や被爆者の怒りの声の後に在日コリアンの声を載せている記事）。また、拉致問題や核実験問題以外にも哨戒艦沈没事件など韓国や朝鮮で何か問題やニュースがあると、在日コリアンの不安や意見・声を載せるという報道が多い。

「真の隣人」へ半歩 日朝首脳が初会談 【大阪】

北朝鮮が日本人拉致の事実を認めたことは、大阪の在日社会にも衝撃を与えた。

大阪市生野区のコリアタウンでは、多くの店主らが首脳会談の行方を見守った。拉致問題で安否が伝えられると、韓国籍の在日2世洪呂杓（ホンヨピョ）さん（72）は「あれだけ否定しながらまさか…」と言葉を詰まらせた。一方で「遺族のつらさを思うと胸が痛むが、長い目で見れば両国の信頼回復への一歩になるのではないか」と話した。

朝鮮籍の在日2世文友平（ムンウピョン）さん（62）の民族衣装店には、国交正常化の機運が高まれば数人が集って祝う予定だったが、自粛した。文さんは「拉致はなかったと思っただけに言葉もない。遺族の方々の心境を思うと本当に残念だ」という。

国交正常化交渉再開については「日本人の間には、それどころではないとの見方が広がるかもしれないが、朝鮮民族が日本から多大な受難を被ったことも事実。お互い歩み寄っていくしかない」と話した（朝日2002.09.18）。

在日へ攻撃やめて 市民団体、街頭で訴え・要望書 【大阪】

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が日本人の拉致を認めて以降、朝鮮学校生や在日韓国・朝鮮人への嫌がらせが相次いでいるため、二つの市民団体が19日、大阪市内で「攻撃や人権侵害はやめよう」と訴えた。

大阪市内の朝鮮初中級学校では18日朝、女生徒が突き飛ばされたり、石を投げられたりしたほか、大阪府内や兵庫県内の学校などへ無言電話が相次いでいる。

19日朝には、大阪市内の朝鮮中級学校に通う中2の女子生徒が登校途中に男子高校生5人に囲まれ「お前、朝鮮学校だろう」「朝鮮に帰れ」と暴言を浴びせられた。同学校によると、高校生らは持っていたたばこの箱を女子生徒に投げつけて立ち去ったという。

また、中2、中3の男子生徒もこの日朝、泉大津市の南海電鉄北助松駅で電車に乗ろうとした際、50歳くらいの男に「お前らは朝鮮学校の生徒だろう」と声をかけられ、肩をつかまれた。男が離さなかったため、電車に乗れなかったという（朝日2002.09.19）。

在日の街、嘆きの声 北朝鮮ミサイル発射…新大久保歩く /東京都

北朝鮮がミサイルを発射した5日、日々と変わらぬ當みを続ける在日コリアンたちがいた。ただ、怒りやとまどいも見え隠れした。その日の彼らの息づかいを感じようと、街を歩いた。

新宿区のJR新大久保駅に近い「コリアンタウン」は、雨にけぶっていた。職安通りの両側に、ハングルの看板があふれる。約700メートルにわたって、飲食店や雑貨店など約200店が集まる。

街を案内するガイドセンターのカウンターに座っていた李正眞（イジョンジン）さん（26）に声をかけると、「本当にびっくりしましたよ」と身を乗り出してきた。「金正日（総書記）は軍を抑えるべきだ。戦争になったらどうするつもりなのか」と憤った（朝日2006.07.06）。

被爆者「非道、許せぬ」 在日コリアン困惑 北朝鮮の核実験表明 【大阪】

北朝鮮が「核実験を行う」と表明した。しかし、いつ、どこで実施するのかなど、不明な点が多い。様々な情報や憶測が飛び交うなか、被爆者や在日コリアンたちの間に怒りや困惑が広がった（朝日2006.10.04）。

北朝鮮の核実験 在日社会に嘆き、不安 同じ民族として残念＝神奈川

◆戦争始まりそう…

北朝鮮が9日に「核実験を実施した」と発表したことに對し、県内の在日コリアンの人たちから嘆きや不安の声が上がり、知事らが強い抗議の姿勢を示した。

関東有数のコリアタウンがある川崎市。川崎区桜本の商店街で、買い物をしていた在日2世の韓国籍女性(51)は「同じ民族として残念。私たち庶民には何もできないのが歯がゆい。平和なアジアを築けないものか」と嘆いた。別の韓国籍の女性(66)は「まったく理解できない。戦争が始まりそうで恐ろしい」と不安を口ににした。

在日韓国・朝鮮人の地位向上に取り組んできた在日韓国人の牧師李仁夏さん(81)は「大変つらい。経済制裁は北朝鮮の人民を飢えさせる。影響力がある中国が説得すべきだ」と、複雑な思いを吐露した(読売2006.10.11)。

北朝鮮魚雷「冷戦時代に逆戻り」 在日社会、広がる不安 【大阪】

韓国軍哨戒艦の沈没をめぐり、国際軍民合同調査団が20日、原因は北朝鮮の魚雷だと結論づける最終報告書を発表した。在日社会の間には落胆や不安が広がり、拉致被害者家族からは、北朝鮮への圧力を強めるよう求める声があがった。＝1面参照

朝鮮半島の平和的な統一を願って1985年から続けている「ワンコリアフェスティバル」の実行委員長、鄭甲寿(チョンカプス)さん(55)＝大阪市生野区＝は「金大中(キムデジュン)、盧武鉉(ノムヒョン)両政権が軟着陸に向けて10年間努力を積み重ねてきたのに、すべて台無しになってしまった。完全に冷戦時代に逆戻りだ」と落胆した。ただ、「南北の統一はいつかできるという信念は変わらない」とし、「これ以上、関係が悪化しないことを祈るだけだ」と話した。

作家の高賛侑(コウチャニュー)さん(62)＝同区＝は、在日コリアンの関心が朝鮮半島自体から離れてしまうと危ぶむ。「祖国への心理的な距離感がさらに広がってしまった。それでなくても北や南は何をしてくれたのかという思いがあるのに、南北関係が悪化すると、とばっちりを受けるのはいつも在日だ」と嘆いた(朝日2010.05.20)。

同じ民族なのに 在日コリアンから見守る 北朝鮮、韓国に砲撃 【西部】

在日コリアンや拉致被害者の家族ら多くの人々が、日本からも朝鮮半島の動きを見守る。

在日コリアンが多く住む山口県下関市。この日は焼き肉店などが立ち並ぶ地元の商店街で、朝鮮半島の踊りを披露したり、屋台で韓国料理を楽しんだりする地域交流フェスティバルが催されていた。

在日3世の50代女性は「びっくりした。(砲撃によって)朝鮮半島の緊張感が高まってきた。同じ民族同士なのに、悲しくショックだ」と話した。3世の40代男性は「下関では文化と平和の祭典の日なのに、残念

だ。哨戒艦沈没事件に続いて、『またか』という気持ち。対立はいい加減やめてほしい』と憤った（朝日 2010. 11. 24）。

朝鮮学校の高校無償化「凍結」困惑の声 国「適用、平和が前提」 北朝鮮砲撃【西部】

北朝鮮の砲撃事件を受け、政府が24日、朝鮮学校への「高校無償化」のプロセス停止に言及した。朝鮮学校関係者や支援者の間には戸惑いの声が上がった。

九州・沖縄・山口で唯一、高校課程がある九州朝鮮中高級学校（北九州市）では、無償化に必要な書類を文部科学省に提出し、不足部分などを詰めている段階だった。学校関係者は「私たちが何かしたんでしょうか。『なぜ?』としか思えない」と話す。

山口県内から子どもを通わせている父親（52）は、「北朝鮮がしてはいけないことをしたのは確かだ」と断った上で、「在日コリアンの99%はずっと日本で暮らしていく。子どもに母国語を教えたいという気持ちで朝鮮学校に通わせているが、親も子どもも日本の市民と変わらない生活をしている」と訴えた（朝日 2010. 11. 25）。

朴氏の辞意「ようやく」 日韓関係に影響「不安」 関西、在日コリアンの声 【大阪】

疑惑の渦中にある韓国の朴槿恵（パククネ）大統領が任期途中での退陣を表明した29日、関西在住の在日コリアンや韓国ゆかりの人たちからは「当然だ」という受け止めとともに、日韓関係への影響を案じる声も出た。

▼1面参照

「みんなで選んだ大統領が、まさかこんなことになるとは」。大阪市生野区のコリアタウンにある韓国食堂で働く金順徳さん（57）は、ラジオで会見内容を知り、そう語った。普段からスマホなどで韓国のニュースをチェック。特に国のことを真剣に考える若者が大きなため息をついていると感じているという。

コリアタウンで韓国カフェを営む金泳培（キムヨンベ）さん（47）は「この地域の商売は、日韓関係に大きく左右される。両国の関係にどんな影響が出るのか心配だ」と話す。後任の大統領に誰が就くのが気になるといい、「名前が挙がっている顔ぶれは対日姿勢が厳しそう。日韓関係が冷え込むことにならないか不安です」と表情を曇らせた（朝日 2016. 11. 30）。

〈⑤「将来性のある・活躍する存在（主体的）」として描くもの〉

在日コリアンとしての誇りを持って生きようとする話や自分の夢や目標に向かい努力する在日コリアンの記事もあった。これらの記事は1人や少数の在日コリアンを主人公にした物語的な記事が多い。

民族衣装で祝う 名古屋で在日朝鮮人の成人式 / 愛知

成人の日を前に、県内で暮らす在日朝鮮人の成人式「愛知同胞青年成人祝賀会」が七日、名古屋市中村区の名古屋国際センタービル内で開かれた＝写真。約八十人の新成人が出席。親たちから温かい祝福を受けて「大人への仲間入り」に思いを新たにしていた。

式典では、在日本朝鮮人総連合会県本部の金鎮度（キム・ジンド）委員長が「君たちの両肩に未来が担われている」と祝いの言葉を贈った。新成人を代表して李祥愛（リ・サンエ）さんと韓柱生（ハン・チュセン）さんが決意表明。李さんは「在日コリアンとしての自覚と誇りを持っていきたい」と話した（朝日2001.01.08）。

ラップで叫ぶ「民族とは国とは」 在日コリアンデュオ「KP」

ラップ・デュオとしてデビューしたばかりの在日コリアンの若者2人が、今年から活動を本格化させる。グループを組んだのは、北朝鮮の拉致問題で日本中が衝撃を受けていた時期。「どうしてこんな悲劇が起きたのだろう」「民族って、国家って何だろう」。議論を重ねて作ったのが、「ONE KOREA」（ワン・コリア）という曲だ。グループの名は「KP」。コリアン・プライド、ピープル、パワーの意味が込められている。

別々に活動していた2人は一昨年夏、ライブを通じて知り合った。コリアンの誇りとは何か、大事なものは国籍か名前か。そんな話で意気投合した。そして9月末、「ONE KOREAという曲を作ろう」と、リユンさんが持ちかけた。

「日本人にコリアンの民族分断の苦しみを訴えたいと思った」とリユンさん。「興味本位の北朝鮮報道があふれているけれど、なぜ拉致のような悲劇が起きたのかを伝えなければ」と、ジュウォンさんが応じた。憎しみや欲望が戦争や国境を生み、38度線が傷跡として残っている——。そう訴える詞を書き上げ、ダンスビートに乗せた。

以来、クラブやライブハウスのほか、朝鮮半島の統一や平和を願う集会にも活動の場を広げてきた。昨年10月、CDデビューを果たした。曲は「NEVER LAND」。力を入れてきた「ONE KOREA」も、いずれCDにする予定だ（朝日2004.01.13）。

在日スター“虎の穴” 「本名で舞台へ」養成学校で特訓 【大阪】

日本と朝鮮半島の両方で活躍できる在日コリアンのスターを生み出したい。在日2世の金智石（キムジソク）さん（42）＝兵庫県尼崎市＝がそんな思いで今年4月、大阪に開校したタレント養成学校「KJミュージカルスクール」から、2組計10人がデビューを目指している。多くの在日韓国・朝鮮人が国籍やルーツを隠して活動しているといわれる芸能界。夢は本名でステージに立つことだ。

東京で歌手をしていたが、「KJ」に入校して再デビューを目指す金福年（キムボンニョン）さん（26）は「韓国籍であることを隠すよう求められたこともあったが、今は『在日』を売りにしたい」と言い切る。李潤姫（リユニ）さん（15）も「在日は言葉も文化も幅広いものを持っている」。

芸能界やスポーツ界は、ルーツを隠して活動する在日韓国・朝鮮人が多かったとされる。だが、00年にデビューした人気歌手のソニンさん（21）のように、最初から在日であることを明かす芸能人も増えている。

ソニンさんの所属事務所の和田薫代表は「国籍が芸能活動に不利になったことはない。ソニンを見て『国籍は超越できる』と思ってくれればうれしい」（朝日2004. 11. 13）。

63歳の入学式 在日2世、生野区の夜間中学 大阪市 【大阪】

大阪市生野区の市立東生野中学校夜間学級で8日夜、入学式があった。「学校生活を子どものように胸ふくらませて楽しみにしています」。新入生を代表して言葉を読み上げたのは、在日韓国人2世の姜文子（カンムンジャ）さん＝写真。63歳になってくぐった学舎の門だった。

通学カバンには、筆箱と鉛筆5本、消しゴムが大切にしまっている。5日前の日曜日、8人の孫が小遣いを出し合い、届けてくれた。一番上は今春、高校生になる。

大阪生まれの姜さんは終戦後、5歳のときに母の故郷の韓国・済州島に母とともに渡った。島は貧しく母に職はなかった。18歳の時、単身で密航船に乗り、再び大阪にたどり着いた。

あれから45年、同じ在日韓国人の夫との間に子どもが5人。「同じ苦勞はさせまい」と、縫製の下請け仕事で夫婦はミシンに向かった。

子どもはみな高校や大学を卒業させた。孫が小学校に上がれば、ランドセルを贈る。翻って自分は、役所の手続きでも文字が書けない。「勉強したい」と、夜間中学の門をたたいた（朝日2005. 04. 09）。

在日コリアン、言葉の懸け橋に 下関のハイさん、「要約筆記員」めざす /山口県

在日韓国・朝鮮人が4千人近く住む下関市。在日社会も高齢化が進み、病院や市役所に行った際、日本語が不自由だったり、耳が遠かったりして書類の記入や手続きに困る人も少なくない。「何か役に立てたら」。日本語とハングルを操る市内の青果店従業員ハイ聖烈（ペンソル）さん（59）は在日コリアンと日本人の言葉の懸け橋になればと、筆記通訳の「要約筆記」を学んでいる（朝日2006年12月01日）。

〈⑥「差別と闘う姿」を描くもの〉

国籍問題や差別に苦しめられる在日コリアンやそれらに抵抗していこうとする活動を載せた記事もあった。中でもヘイトスピーチに関する記事では、差別活動に反対の意思を示そうとする音楽祭や「反差別パネル展」の紹介などが多く、必ずヘイトスピーチに対抗する在日コリアンの姿を描いていた。

「解任は差別」現場反発 外国籍教員「主任」ダメ？ 文科省、登用認めず 【大阪】

公立小中高校で外国籍の常勤講師が200人を超え、校長や教頭を補佐する主任に就く人も現れている。しかし、文部科学省は主任への登用を認めておらず、解任を通告する教育委員会もあるなど現場で混乱が生じている。

兵庫県立湊川高校（神戸市長田区）の常勤講師で在日コリアン2世の方政雄（パンジョンウン）さん（57）は06年4月、生徒指導の主任になったが、翌年、校長から主任を外れるよう求められた。拒否すると、県教委は1日200円の主任手当を打ち切った。「一生懸命働いても、主任すらなれない私たちは一体何なのか」と涙ぐむ。

神戸市立垂水中学校の学年副主任だった韓裕治（ハンユチ）さん（43）は今春、いったん副主任に任命されながら解任された。副主任は主任の不在時、その職務を代行する場合もあるためだ。韓さんは「外国籍というだけで日本人の教諭より下に置かれている。こんな自分がどうやって人権や差別について生徒に教えればいいのか」と憤る（朝日2008.11.30）。

「最後まで闘い続ける」控訴棄却で原告ら 在日無年金訴訟 /福岡県

国籍を理由に老齢年金を受給できないのは違憲だとして、県内の在日韓国・朝鮮人らが国に賠償を求めた訴訟で、福岡高裁は17日、原告側の控訴を棄却した。原告らは「差別をなくすため最後まで闘い続ける」と話し、最高裁へ上告する方針を示した。

「見殺しにするんですか」。午前11時、高裁の法廷で「控訴棄却」の主文が読み上げられると、満席の傍聴席から悲痛な叫び声があがった。

判決は、旧国民年金法（1959年制定）が対象を日本国民に限定したことについて「政府に、自国民と同一の社会保障を与える法的義務があるとはいえない」とした。

原告の一人、北九州市門司区の成夏燮（ソンハソプ）さん（79）は「悔しい。死ぬまでに解決すると思って頑張ったが、また変わらなかった」と重い口調で話した。今年3月、腎臓がんが見つかり、来月から入院する。しかし収入はなく、入院・手術の費用は家族や知人から借りなければならない。「行政が勝手にしたことで、娘、孫にも負担を強いなければならない。このつらさが分かりますか」と話した（朝日2011.10.18）。

「差別ない街に」パネルで訴え 名古屋で「反ヘイト」の活動紹介 /愛知県

在日コリアンらに対する「ヘイトスピーチ」（差別扇動表現）への抗議活動を紹介するパネル展が3日、名古屋市中村区の愛知韓国人会館で開かれた。会場には、在日3世の女性デザイナーが手がける現代風のチマ・チヨゴリの展示も。差別のない街を実現し、民族衣装を着て自由に歩ける未来を目指す。そんなメッセージを込めた。

「反ヘイトが『マイナスをゼロに戻す活動』なら、きゃわチヨゴリは『ゼロからプラスを目指す活動』なんじゃないか」。主催者のそんな考えに共感し、作品11点を展示した（朝日2015.11.04）。

難民反対派デモ、「差別」と抗議も さいたまなど

難民受け入れに反対するデモと、その動きを「難民問題に名を借りた差別だ」と反対する人たちの抗議行動が29日、各地であった。

受け入れに反対する市民団体がさいたま市大宮区で主催したデモには、埼玉県警によると約80人が参加した。「移民（難民）受け入れ絶対反対」などの横断幕を掲げて行進。パリで起きた同時多発テロを挙げて「難民にテロリストが交ざっていたら、誰が責任を取るんだ」などという声も上がった。

一方、在日コリアンらへのヘイトスピーチに抗議してきた市民ら約200人（主催者発表）は、その近くで「難民歓迎」「憎悪に身をゆだねない」などの横断幕やプラカードを掲げて対抗した。警察官400人が警備に当たり、休日の繁華街は一時騒然となった（朝日 2015. 11. 30）。

特に朝日新聞はヘイトスピーチの記事において反デモ視点（在日コリアン目線）で描いているのが分かりやすい。

（社説）ヘイト対策法 差別を許さぬ意識こそ

差別をなくす取り組みは、日ごろから不断に続く努力の積み重ねである。どうすればヘイトスピーチをなくせるか、だれもが差別におびえることなく暮らせる社会をどう築いていくか。

肝心なのは法をつくることだけではなく、国民全体で常に考え、行動することだろう。

「表現の自由」を守りながら、社会に潜む差別の構造に目を向け、「ヘイトスピーチは絶対に許さない」という強い意識をもたねば、身の回りから差別的な言動はなくなる（朝日 2016. 05. 25）。

反対派ら数百人包囲 ヘイトデモ中止「尊厳守られた」 川崎

ヘイトスピーチ対策法が施行されて最初の週末の5日午前、排外主義的な団体が川崎市中原区で計画していたデモが、出発直後に中止された。十数人が集まったのに対し、反対する市民ら数百人が取り囲んだ。神奈川県警も中止するよう説得した。▼1面参照

市民らは、デモの出発地とされた同区の中原平和公園で「ヘイトデモ中止」「帰れ」と叫び、路上に座り込んだ。デモ隊は日の丸やプラカードを掲げて10メートルほど進んだところで市民らに阻止され、警察の説得に応じて中止を決めた。

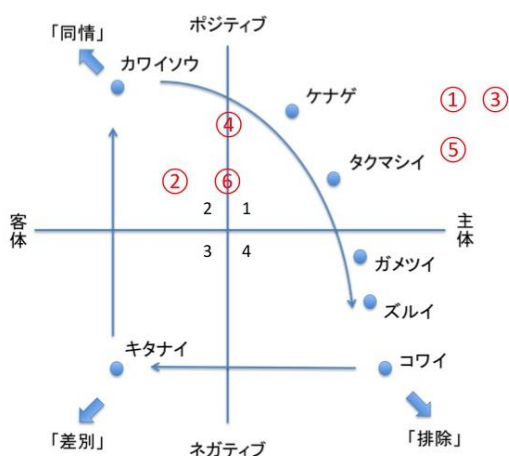
川崎市でヘイトデモ反対の先頭に立ってきた崔江以子（チェカンイジャ）さん（42）はデモの主催者の男性に歩み寄り、「共に生きよう」と書いた手紙を手渡した。中止後、「法ができたおかげで、私たちの尊厳が守られた。全国で被害に遭っている人たちも、あきらめないで」と涙を流してあいさつした（朝日 2016. 06. 06）。

4-2-3. 在日コリアンに関する記事分類に対する考察

在日コリアンの記事は、①「共に生きていく・交流を深める存在」として描いているもの、②「共生すべき」存在として描くもの（日本人が主体となり、制度変更や支援を進める記事など）、③「日韓の架け橋・南北の交流を促進する存在」として描くもの、④「二国間の関係の中に挟まれ、苦しむ」存在として描かれているも

の、⑤「将来性のある・活躍する存在（主体的）」として描くもの、⑥「差別と闘う姿」を描くものの六つに分類出来た。この時点で、朝日新聞と読売新聞の「在日コリアン」の報道の仕方が一つのフレームに一貫されているわけではないことが分かる。記事数としては、③と④が多く、他の記事分類と比べると⑤は少なかった。そして、それぞれのフレームを「図5 イメージ枠組みと行動」の図に当てはめ、それぞれ在日コリアンが「主体的」「客体的」「ネガティブ」「ポジティブ」に描かれているのか見ていく。すると①～⑥の全てのフレームにおいて在日コリアンをネガティブに描いているものはなかった。④「二国間の関係の中に挟まれ、苦しむ」存在として描かれているものと⑥「差別と闘う姿」を描くものは、在日コリアンの置かれている状況はネガティブであるが、在日コリアン自体をネガティブに描いていないわけではない。そして④や⑤は差別に抵抗する人々（主体的）を描いているものもあるが、記事によっては差別により年金を受け取ることの出来ない苦しい生活を伝えるものや国際関係の悪化から不安な生活を送らざるを得ない（何も出来ないもどかしさを伝える）記事もあるので、「主体的」なのか「客体的」なのかは、はっきり言えないということが分かった。そのため、④「二国間の関係の中に挟まれ、苦しむ」存在として描かれているものと⑥「差別と闘う姿」を描くものは「主体と客体の中間×ポジティブ」に位置する。次に①「共に生きていく・交流を深める存在」③「日韓の架け橋・南北の交流を促進する存在」として描くもの⑤「将来性のある・活躍する存在（主体的）」として描くもの三つは「主体×ポジティブ」の第四象限に位置する。そして、②「共生すべき」存在として描くもの（日本人が主体となり、制度変更や支援を進める記事など）は日本の自治体やNPOが支援を進める等の内容であるので、このフレームでの在日コリアンは「受け身」要素が強く主体的とは言えない。そのため②「共生すべき」存在として描くものは「客体×ポジティブ」に位置する。しかしこの場合の「客体」は前項の「ジャパゆきさん」報道のように「かわいそう」というイメージを与えるものではなく、「客体化」の程度が低いものである。

【図 13】



(出典 図5に筆者加筆)

上の図を見て分かるように、在日コリアン報道の記事分類は、「主体的」・「客体的」の区別が非常に曖昧ではあるが第一象限に近いところに位置するフレームが多いことが分かる。これは分析をした記事が2000年以降であり、より「共生」が目指される時代になってきていること、長年日本に定住する中で「在日コリアン

＝他者」という感覚が薄まってきていることが言えるのではないかと考える。現在も在日コリアンの抱える問題は様々であるが、1980年代に増え始め、その言葉自体にネガティブな要素を含んでいる「ジャパゆきさん」報道とは記事分類の結果が大きく異なった。

次に記事検索をして分かったことを述べていく。まず、2000年以降の「在日コリアン」に関するニュースは国際関係の変化や母国での出来事などにより移り変わりが非常に激しかった。例えば、韓流ブームにより賑わう新大久保の在日コリアンの人の話の記事があったと思えば、北朝鮮の拉致問題により差別を恐れる在日コリアンの声が報道されたりと変化が大きかった。しかし、特に朝日新聞においては報道の移り変わりが激しい中でも、在日コリアン目線での報道や在日コリアンの声を伝える記事が一貫して多かった。在日コリアンの声を伝える記事でもその意見は一つではなく、在日コリアンの内部での多様な声を伝えている。例えば以下である。

韓流、その後で 岩本真紀（アップデート） 【名古屋】

私と同年代の奥様が答えるに「子供の幼稚園で、自分が韓国人だということが言いやすくなった」。外国人登録証を見せて、「いいなあ、韓国人なんだ」と感動されているらしい。そしてそのお母様は「我々民族の人が、日本でこんな大きなブームになるほど人気を得るなんて。誇りに思う」と言う。

一方で高校生のおいは「韓国映画も沢山上映するようになった。兄弟愛を描いた『ブラザーフード』のウォンビンやチャン・ドンゴンも格好いい。でもそれだけじゃない。そこを日本人がわかってくれたら」。

自分の国籍をいまだに言い出しにくい在日コリアンの人たちがいる。そしてその登録証には、時には、本名と日本名（通名）の両方が書いてあり、国籍などが記入される欄には簡単に帰ることが出来ない地名が記されていることもある。私たちはまだ知らないことが多い。

すてきな男性やグルメだけではない、朝鮮半島の文化や歴史をどうやってこれから理解していくか、冬ソナ社会現象後のテレビの役割でもあると思う（朝日2004.08.27）。

「一歩前進」あふれる涙 関係者ら歓喜 民団・総連が共同声明 【西部】

「在日本大韓国民団」（民団）と「在日本朝鮮人総連合会」（総連）が17日に発表した「共同声明」は、民族的団結のため協力することなどがうたわれた。九州・山口の在日コリアンは、拉致問題への取り組みなどの「温度差」を乗り越え、二つの団体が新たな一歩をどう踏み出すか注目している。

山口県下関市で青果店を営む在日2世の女性（58）は朝、和解のニュースに「涙がこらえられなかった」。在日コリアンが多く住む商店街に店があり、見えない壁を感じていたからだ。「和解が総連、ひいては北朝鮮の態度が軟化するきっかけになれば」と期待をにじませた。

一方、福岡市南区に住む在日コリアン4世の居酒屋オーナー、林亜矢さん（26）は、「在日同胞社会での民族性の希薄化」を強調した共同声明に違和感を感じている。小中高すべて日本の学校に通い、語学学校で1

年間、「母国語」を学んで在日の仲間に出会った。「むしろ、日本との壁を作らずに在日独自の文化を育てていくことが大切」と話した（朝日2006.05.18）。

このような記事からは在日コリアンの中に多様な意見を持った人がいることが伝わる。

5.おわりに

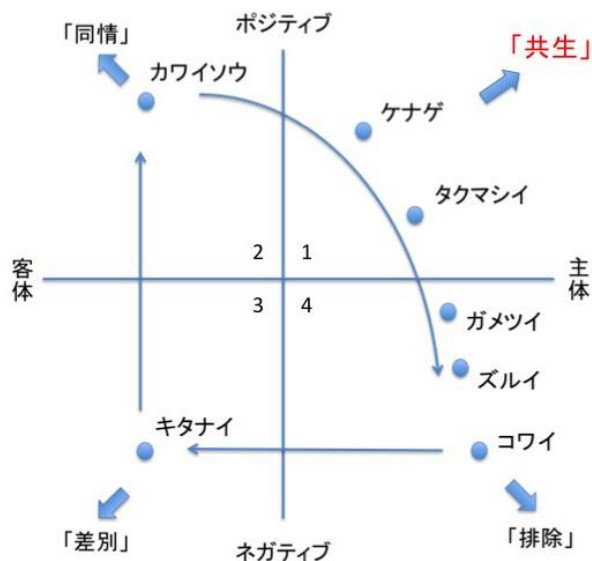
5-1.メディアと難民・在日外国人問題の関係性

最後に第一章の研究目的に立ち戻って「メディアと難民・在日外国人問題の関係性」についてまとめたい。私が本論文で明らかにしたいことは「日本の主要全国紙が難民・在日外国人をどのように描いてきたか」であった。第三章と四章で見て来たように、「ベトナム難民」「シリア難民」「ジャパゆきさん」「在日コリアン」報道において、朝日新聞、読売新聞は双方とも一貫したフレームだけを持つのではなく、「ベトナム難民」報道では九つ、「ジャパゆきさん」報道では四つ、「シリア難民」報道では六つ、「在日コリアン」報道では六つの描かれ方に分類することが出来た。確かに、「ジャパゆきさん」報道における朝日新聞の描き方は「かわいそう」イメージのものが多く、第一象限の「主体×ポジティブ」に当たる記事は見つからなかった。それに対して「在日コリアン」報道は「主体×ポジティブ」の第四象限に当てはまるものが多かった。また、「ベトナム難民」報道については「主体×ネガティブ」の分類が多かったが、予想以上に「主体×ポジティブ」の記事も多かった。最後に「シリア難民」報道は「客体×ポジティブ」に当てはまる記事が多かった。以上四つの報道を比べると、「在日コリアン」と「ベトナム難民」がより「主体的」に描かれており、近年の報道である「シリア難民」「在日コリアン」報道では「ネガティブ」な描かれ方がされなくなっている。これは国際化が進み、「多文化共生」がより目指される社会になってきていることが関係すると考えられる。

当初、私はメディアが「難民」や「在日外国人」の良いイメージを与える報道が少ないことが「差別」や「排除」につながってしまっているのではないかと考えていた。また、メディアの偏った報道の仕方が人々に悪影響を与えているという批判はよく耳にする。しかし、本論文での「ベトナム難民」、「シリア難民」、「在日コリアン」の報道の分析では「主体×ポジティブ」である第一象限に当てはまる記事が多く存在した。また、「ジャパゆきさん」報道においては、活躍を伝える記事は見つけることが出来なかったが、「ジャパゆきさん」という言葉自体が差別的意味を含み、使われなくなっている。以上のことから、新聞は一概に偏った報道しかしていなかったとは言えない。つまり、今回の四つの対象における二社の記事では、報道が「難民」や「在日外国人」の「差別」や「排除」への結びつきを助長しているとは言えなかった。

奥村は第一象限から発する行動について言及していなかったが、私は「主体×ポジティブ」なイメージからは「共生（共に協力し合う主体の）」という行動が生まれる可能性を考える。

【図 14】



(出典 図5に筆者加筆)

大切なことはメディアの報道にしても、人々の意識にしても、対象を「主体」とみるか「客体」として見るかにより、見方や感じ方が左右されてしまうということである。お互いが「主体」のまま、「同化」するのではなく「差別化」するのではなく「共生」していく道を私たちが共に探らねばならない。

5-2. メディアは難民・在日外国人をいかに表象すべきか

次に、第三章・第四章の分析の考察と第二章「メディアの報道」を踏まえながらメディアは難民・在日外国人をどのように表象すべきかを考えていきたい。

まず2-3「マスメディアの手法に関する批判・問題点」で提起した「メディアは差異を強調すべきか、それとも不可視化すべきか」について考える。確かに四つの対象の記事を分析する中で、例えば「ベトナム難民の脱出の悲惨さ」や「ジャパゆきさんの生活の苦しさ」の記事などはその生活からかけ離れている人々からすると、「自分たちと違う存在、差異」をより認識してしまう。メディアの表象は自己と他者が異なる存在だという認識は保ちつつも、苦しんでいる他者の心理や境遇に共感をし続けるというバランスが大切で、他者として感覚を維持できるほどには距離(=「適切な距離」)を保つべきだという考え方もある(津田2016:220-221)。自分とは違う経験や生活環境など他者との間に大きな「差異」があることを知った時、その事実が受け入れがたく、戸惑うこともあるだろう。しかし、それはメディアの報道に限ったことではなく、私達の日常生活でも起きることである。メディアは差異を誇張すべきではないが、不可視化してはならないと考える。不可視化してしまうことは他者との間にある差異そのものを無視してしまうことになるからである。まず(メディアを通じて、あるいは通じなくても)他者との間にあるギャップを知り、自ら他者についてより知ろうとする中でそのギャップが何なのか、またはギャップは存在しなかったのかを考えていくべきだと考える。

次にマスメディアは受け手に「共感」を喚起するために、感情面での「操作」を試みて良いのかという問題を考える。記事进行分析の中で、個人に焦点を当てた物語的な記事や小さい子供や女性難民の写真を多く使う

など、読み手の関心や共感を引きつける手法が使われている記事は多くあった。難民や在日外国人の存在にそもそも関心のなかった者や知らなかった者については、これらのメディア報道が「他者」について知ろうとする良いきっかけとなる可能性はある。ただ2-3で記した様に「無力で善良な彼ら（客体）」と「良心的なわれわれ（主体）」という対比が生まれてしまうという落とし穴には注意しなければならない。共感の喚起について、個々人の人格に対する共感よりも、人々が果たしている、あるいは果たそうとしている様々な役割に焦点を当てたものが有効であり、そこでは、「他者」が現に果たしている役割、それを果たすことを不可能にしている状況、あるいは福祉を通じて新たな役割を獲得した人々の姿が描かれている必要があるという意見もある（津田2016：232）。「他者」がメディアの報道の受け手の多くとは異なるものであっても、何らかしらの役割を果たそうとしている存在として描き出すことは、「差異」を認識しつつも、共感の対象となりうる良いバランスを保つこと出来るのではないだろうか。

「差異を認識しつつも、他者に対して共感をする」、そして次にその他者と共に生きていくには「信頼」という要素が一つのポイントになると考える。それらの「他者」がたとえ日本と地理的に遠い国にいる場合でも、「信頼」を寄せられるような、そしてその信頼の輪が広がるような報道が望ましい。

以上、先行研究や第三章・第四章を踏まえながらメディアは難民や在日外国人をどのように描くべきかを考えた。しかし、これらの記事を読み、判断するのは個人一人一人であって、どの記事を読むのか信頼するのか、そしてその解釈の仕方はそれぞれ異なるだろう。読み手も記事を吟味し検討していく必要があるだろう。そしてメディアの報道に頼るだけでなく、実際に他者と関わりながら、自分の持つ他者へのイメージを更新していくことが大切である。

5-3.本論文の限界・今後の課題

本論文では、難民と在日外国人の描かれ方について見ているが、新聞というメディアに限定し、「ベトナム難民」「シリア難民」「ジャパゆきさん」「在日コリアン」のみを検索している。また、記事の検索年数も絞られているという点から非常に限定的な調査になっている。また、記事の分類に関しては先行研究を参考にしながら慎重に進めたつもりであるが、主観的な部分が含まれてしまっているだろうことは反省点である。また「ジャパゆきさん」は1970年代後半から急増したが、記事検索は記事が電子化されている1985年～になってしまったことも反省点である。そして、第四章にも記述したが、「エイズ＝ジャパゆきさん」報道など、週刊誌の方が新聞よりも大胆に描いており、新聞というメディア自体がテレビや週刊誌と異なる性質を持っているという点も忘れてはならない。今後の課題は、分析の方法が自分で記事を読み、分類するという主観的なものになってしまったので、分類分けをした記事の数を正確に調査すること、または統計等を用いてより客観的な分析をすることである。

引用・参考文献

学術書

- ・ 大石裕, 2016, 『コミュニケーション研究 第四版』慶應義塾大学出版株式会社.

- ・ 奥村隆, 2003, 『他者という技法 コミュニケーションの社会学』 株式会社日本評論社.
- ・ 加藤節・宮島喬, 1994, 『難民』 東京大学出版会.
- ・ 河合優子, 2016, 『交錯する多文化社会-異文化コミュニケーションを捉え直す』 株式会社ナカニシヤ出版.
- ・ 駒井洋, 2003, 『多文化社会への道』 明石書店.
- ・ 駒井洋, 1999年, 『日本の外国人移民』 明石書店.
- ・ 駒井洋, 2002, 『国際化のなかの移民政策』 明石書店.
- ・ 佐竹眞明, 2011, 『在日外国人と多文化共生-地域コミュニティの視点から』 明石書店.
- ・ 渡戸一郎・井沢泰樹, 2010, 『多民族化社会・日本』 明石書店.
- ・ 津田正太郎, 2016, 『ナショナリズムとマスメディア-連帯と排除の相克-』 勁草書房.
- ・ 山崎朋子, 2012, 『アジア女性交流史』 岩波書店.
- ・ 山神進, 2007, 『激変の時代-我が国と難民問題 昨日・今日・明日』 日本加除出版株式会社.
- ・ 山田寛, 2007, 『日本の難民受け入れ-過去・現在・未来』 東京財団.

学術論文

- ・ 萩野剛史, 2012, 『「難民」と「移民」の差異-わが国における生活面に焦点化して-』 『瀬木学園紀要』 6:47.
- ・ 萩原滋、国広陽子編、2004、 『テレビと外国イメージメディアステレオタイプینگ
研究』、勁草書房.